

群 教 セ	H02 - 01
	平 25. 249集
	小・幼小連携

幼児教育と小学校教育の 滑らかな接続の推進に向けて

— 学びをつなぐ指導の在り方を探る調査と保育参観を通して —

長期研修員 高橋 崇子

キーワード 【小学校教育 幼児教育 学びのつながり 滑らかな接続】

I 主題設定の理由

子どもの発達や学びは連続したものでありながら、幼児教育から小学校教育へと移行する際には、教育の内容や方法、生活環境等に大きな違いがある。小学校に入学した子どもたちにとっては、この違いが大きな段差となり戸惑いが生じてしまうため、急激な変化に対応できない、いわゆる「小1プロブレム」につながっていると考えられる。このような中、文部科学省の報告（平成22年）の中で、幼児期の教育と小学校教育が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われること、さらに、接続期の教育においては、三つの自立（学びの自立・生活上の自立・精神的な自立）を養うことが重要であり、連続性・一貫性を踏まえた教育を行うことの必要性が示された。幼稚園教育要領・保育所保育指針及び小学校学習指導要領においても、それぞれの教育の接続に関して相互に留意する必要性が明記されている。

しかし、文部科学省の行った調査では、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続に向けての取組は、ほとんどの自治体で、重要であると認識しながら進んでいないことが明らかになっている。また、今回、群馬県内において、幼小接続（「幼小」とは、幼稚園・保育所・認定こども園等の幼児教育機関と小学校のことである。以下、「幼小」と表記する）にかかわる実態調査を行ったところ、同様の結果を得た。

幼児教育と小学校教育の接続が進んでいないのは、教育の方法や環境が大きく異なることから、幼小の教育をつなげていくという認識と、つないでいくための指導の方法についての理解が不足しているためであると考えられる。幼児教育においては、遊びを通して子どもたちが自ら気づき、考え、自己実現する中で多くのことを学んでいる。その幼児期に遊びを通してはぐくんできた「学びの芽生え」を、小学校教育での「自覚的な学び」につなげていくことが重要である。つまり、幼小の滑らかな接続を進めていく鍵は、子どもたちの「学びをつなぐ」指導の在り方を探ることにあると考える。

そこで、本研究では、入学した子どもたちの戸惑いを明らかにし、それを基に、幼小それぞれの立場から接続期における指導の在り方を探ると共に、保育参観を行い、幼児教育における子どもの姿と指導にかかわる具体的な事例をとらえる。それらを総合的に分析することにより、幼小の滑らかな接続に向けた、学びをつなぐ指導のポイントを明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

幼小の教職員を対象とした質問紙調査及び保育参観により、幼児教育から小学校教育に移行する際の段差を滑らかにするための指導の在り方を探ることを通して、学びをつなぐ指導のポイントを明らかにし、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続に向けての提言を行う。

III 研究の見通し

1 担任の目から見た子どもたちの戸惑い

年長児担任・小学校1年生担任を対象に質問紙調査を行い、担任の目から見た子どもたちの戸惑いを分析することにより、子どもたちにとっての幼小の段差を明らかにすることができるであろう。

2 接続期における幼児教育と小学校教育

質問紙調査における、小学校スタートの時期の教育及び幼児教育において育てたい力についての回答と実践例を、子どもたちにとっての段差となっている場面と照らし合わせて分析することにより、幼小の教職員の意識や指導の違いや共通点を明らかにすることができるであろう。

3 幼児教育における具体的な事例

質問紙調査で明らかになった「幼小の指導の違いや共通点」を基に、幼稚園・保育所での保育参観を行い、幼児教育における指導について把握することにより、小学校スタートの時期における幼小の学びをつなぐ指導のポイントを明らかにすることができるであろう。

IV 研究内容の概要

本研究は、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続に向けて、子どもたちの学びをつなぐ指導の在り方を探るものである。そのために、群馬県内の年長児担任・小学校1年生担任を対象に幼小の接続にかかわる質問紙調査を行った。まず、「担任の目から見た子どもたちの戸惑い」つまり、幼小の段差とは何かを明らかにした。次に、「小学校スタートの時期に担任が行っていること」と「幼児教育において育てたい力」についての回答と実践例の記述について、段差となっている場面と照らし合わせて分析を行い、指導の違いや共通点を明らかにした。さらに、それを基に幼稚園・保育所において保育参観を行い、幼児教育における子どもの姿や指導について、小学校教育に取り入れたい具体的な事例を把握した。これらの結果を総合的に分析することにより、小学校スタートの時期の教育における学びをつなぐ指導のポイントを明らかにし、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続に向けての提言を行う。

V 研究のまとめ

1 成果

- 質問紙調査を通して、入学した子どもたちにとって段差となる場面は、学習形態や方法、時間の区切り、新たな人間関係作りや教師の子どもへの見方・接し方等にあることが明らかになった。
- 質問紙調査の考察から、子どもたちにとっての段差を滑らかにするためには、幼小の教職員の意識や指導の違いをつなげていくことが重要であることが分かった。また、幼児教育での具体的な指導の在り方を探るため保育参観を行うことにより、幼児教育においては、遊びを通して気付きを促したり、意欲や関心を高めたりする支援や環境構成を行っていることが分かった。これらを総合的に考察すると、小学校スタートの時期においては、幼児期の経験や学びを生かした教育を行っていくため、次のような学びをつなぐ指導のポイントが重要であると言える。

提言

次のようなポイントに留意して、子どもたちの学びがつながるよう指導計画を見直しましょう。

- ◇「話すこと・聞くこと」は、小学校の学習の基盤になります。子どもたちにとって必要感があり、話したい・聞きたいと思える場や題材を設定し、伝える喜びを味わえるようにしましょう。
- ◇子どもたちが45分間の授業時間、座学や教科書・言葉による学習に慣れていけるよう、身近な題材を取り入れ、子どもたちが自ら気付いていけるような体験活動を設定していきましょう。柔軟な時間設定の中で、じっくりやり遂げることで成就感を味わえる場作りも重要になります。
- ◇身近な人とかかわりの中で子どもたちは学んでいきます。遊びや学習の場面で、友達との交流の場や様々な人とかかわる活動を取り入れていきましょう。
- ◇一人一人の伸びや頑張りを認め、自信がもてるような言葉掛けをすることで、子どもたちが安心して伸び伸びと学校生活を送れるようにしましょう。1からのスタートでなく、幼児期の経験を生かして、自分の役割をもち、主体的に活動できる場を設定していくことが大切です。
- ◇小学校の生活に慣れるまでは、時間の区切りを柔軟に考え、一日の流れや活動を組み立てていきましょう。見通しをもって生活することで主体性も身に付いていきます。

また、幼小の滑らかな接続のためには、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校とが、子ども同士の交流や参観や情報交換等を通して連携を深めながら、互いに理解し合い、接続への取組を進め、子どもたちの学びをつなげていくことが大切です。

2 課題

- 幼小接続にかかわる取組について全校での校内体制を整えると共に、他校や幼児教育機関、地域に情報を発信し、取組を共有化していく必要がある。

VI 研究の内容

1 先行研究の成果と課題

文部科学省が各自治体を対象に行った調査報告書「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」（平成22年度）によると、幼稚園・保育所と小学校の子ども同士の交流や、情報交換、授業参観・保育参観など職員同士の交流については、ある程度行われているものの、教育課程の接続に関しては、ほとんどの自治体が重要であると認識しているが、実際には接続のための取組が進んでいないことが指摘されている。その主な理由として、「接続関係を具体的にすることが難しい（52%の市町村）」「幼小の教育の違いについて十分理解・意識していないこと（34%）」が挙げられている。また、全国の幼稚園を対象に行った「幼児教育実態調査」の結果から、小学校との交流を行っている割合を平成20年度と24年度で比較したものをまとめた（図1）。

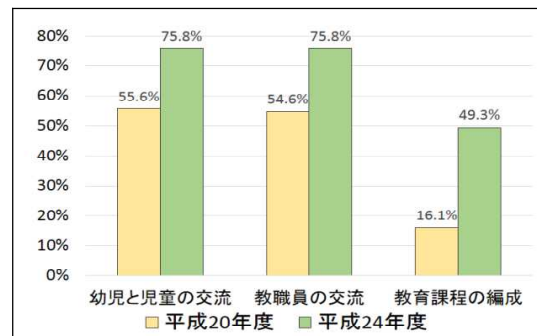


図1 幼稚園における小学校との交流状況
文部科学省「幼児教育実態調査」

幼児と児童の交流、教職員の交流については、実施している割合が5割から8割近くに増えている。しかし、教育課程の編成に関しては、大幅に増加しているものの、子どもや教職員の交流と比較すると、まだ取組に積極的でない様子が分かる。接続に向けての取組についての先行研究に、平成23年高知県教育センターによる「保幼小の連携教育のカリキュラム作成に関する研究」がある。スタートカリキュラムを編成・実施した成果として、幼児教育の遊びの要素を取り入れて、子どもたちの主体的な活動を行うことで表現する喜びや達成感を味わうことができること、ゆとりをもたせた時間設定により指導者も見通しをもった指導ができると共に、子どもたちが共に学ぶ楽しさを味わい、スムーズに学校生活をスタートできることなどを挙げている。

また、平成25年2月に大分県教育委員会が「幼児教育と小学校教育の連携ガイドブック」として、幼小接続カリキュラム事例集を作成した。これによると、作成上の課題として、単に日課表として機能させるだけでなく、幼児期から学童期にかけての子どもの育ちを踏まえ、実際の教育活動に生かしていけるような指導計画にしなければならないことを挙げている。

このように、幼児教育機関と小学校とが、互いの教育についての相互理解を深めることが重要であり、スタートカリキュラムが1年生の小学校生活への適応を促すと共に、幼小の滑らかな接続のために有効であることは先行研究の成果からも明らかである。しかし、多くの学校では積極的に推進するところまで至っていない現状がある。そこで、まずは、群馬県内における教育課程の接続にかかわる実態を明らかにすることにした。

2 県内における教育課程の接続にかかわる実態

県内の年長児担任及び小学校1年生担任を抽出して調査を行った。その結果、接続を見通した指導計画の作成について、小学校においては82%、幼稚園・保育所等においては86%が「必要である」と回答している（図2）。

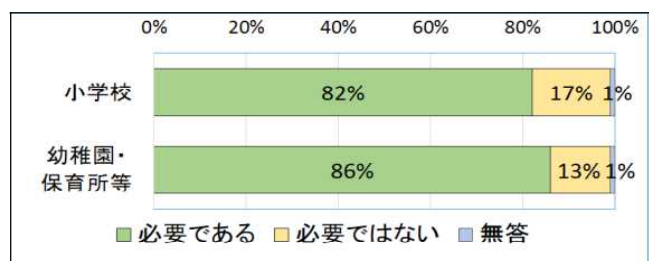


図2 幼小の接続を見通した指導計画作成の必要性

しかし、実際に接続を見通した指導計画を作成しているかという質問に対しては、「作成・実施している」「作成・実施し、よりよいものになるよう検討している」を合わせ、小学校は13%、幼稚園・保育所は32%であった。「作成はしていない」と回答し、さらに、「作成する予定はない」と回答している割合は、小学校において67%、幼稚園・保育所において41%であり、県内においても、教育課程の接続に関しては必要性は感じていな

がらも取組が進んでいないことが分かった。また、小学校と幼稚園・保育所等を比較すると、幼児教育機関では小学校への接続を見通して指導計画の作成を行っている園が多いが、小学校では取組がまだなされていない学校が多いことが明らかになった(図3)。

この結果を踏まえ、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を推進していくために、調査と保育参観を通して幼小の学びをつなぐ接続期の指導の在り方を考えていくことが重要であると考えた。

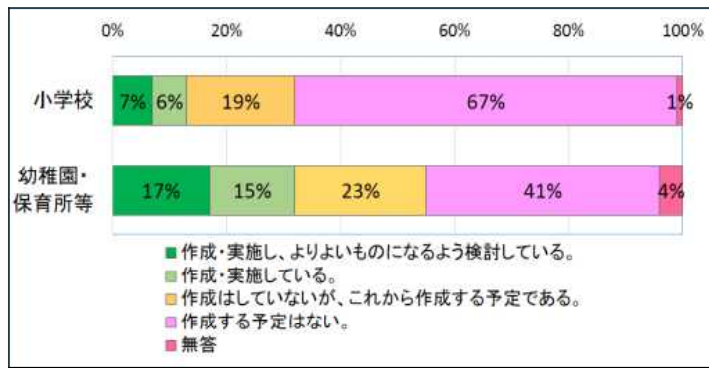


図3 幼小の接続を踏まえた指導計画作成・実施にかかわる実態

3 幼児教育と小学校教育の滑らかな接続について

幼児期の教育は、遊びを通した総合的な教育である。様々な遊びを通して人やものとのかかわりを深めながら、自分で考え自己実現していく中で学んでいる。一人一人の育ちや伸びを重視した活動の中で、「～を味わうようになる」「～を楽しむようになる」という方向目標によって進められる幼児教育は、遊びや経験したことが子どもたちにとっての学びになると言える。一方、小学校教育は、教科の目標達成に向け、教科の内容に沿って学習が進められる。「～が分かる」「～ができる」という到達目標に沿って進められる学習の中で、子どもたちの自覚的な学びを促すものである。

このように、学びの方法や内容の変化に加え、時間の区切り、施設や環境、一日の流れ、集団のかかわりなど、幼児期から学童期へ移行する際には、生活面においても大きな変化がある。幼児期から学童期にかけての学びや育ちは連続しているにもかかわらず、教育の在り方に違いがあることは、子どもたちにとって大きな段差であり、戸惑いを生む要因になっていると考えられる(図4)。

以上のことから、幼小の教育の違いからくる段差を乗り越えられるような手だてを取り入れることにより、幼児教育を土台として子どもたちの学びが小学校生活につなげられていくことを「滑らかな接続」ととらえた(図5)。

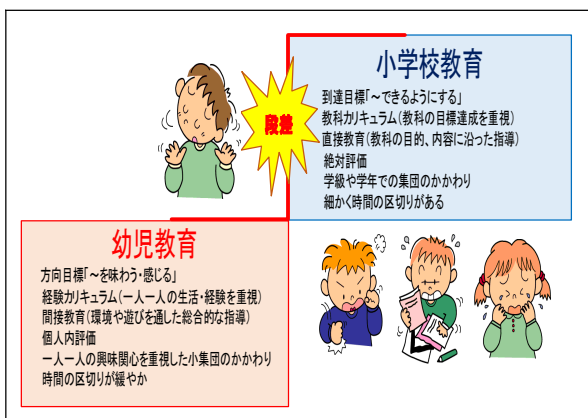


図4 幼小の教育の違い



図5 幼小接続のイメージ

4 学びをつなぐ指導について

前述した文部科学省による調査報告書「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」では、「学びの芽生え」とは、「学ぶということを特に意識しているわけではないが、楽しいことや好きなことに集中することを通じて様々なことを学んでいくことであり、幼児期における遊びの中での学びがこれに当たる」と述べている。一方、「自覚的な学び」とは、「学ぶということについての意識があり、集中する時間とそうでない時間の区別が付き、与えられた課題を自分の課題として受け止め、計画的に学習を進めることであり、小学校における各教科等の授業を通した学習がこれに当た

る」と述べている。

幼児教育の内容として、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域が幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている。この5領域の内容は、それぞれが切り離せるものではなく、遊びの中で総合的にはぐくまれるものである。一方、小学校教育の内容は、教科に分かれ、それぞれのねらいを達成することを旨として教育活動が行われていく。一見すると、

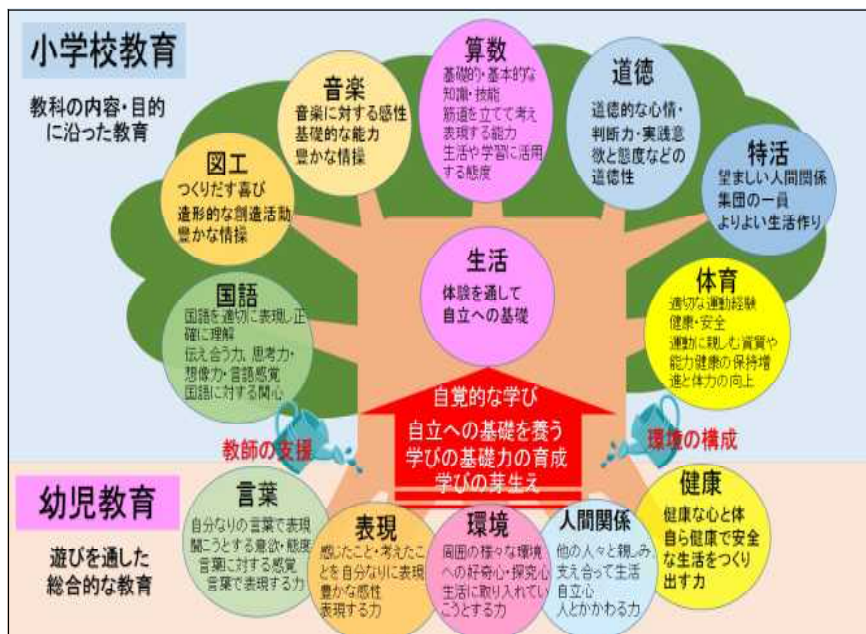
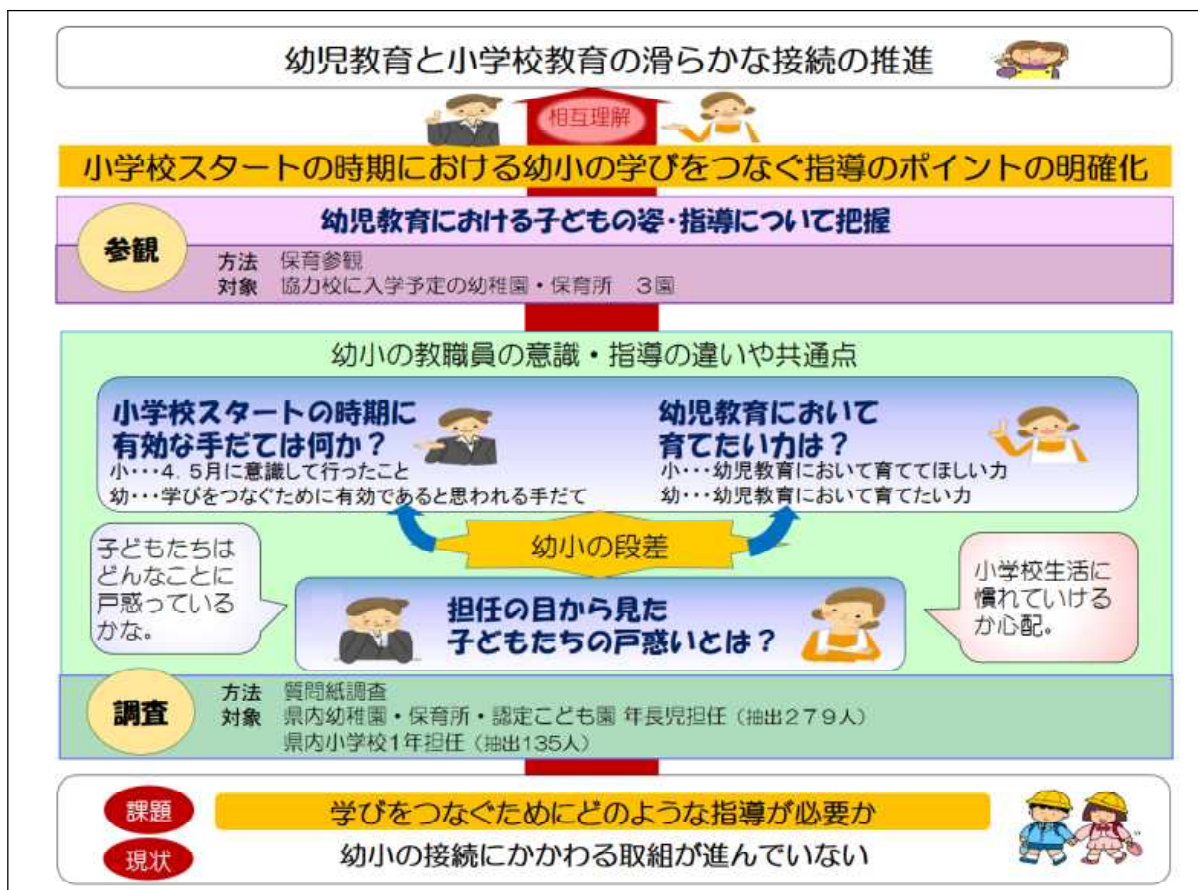


図6 幼児教育と小学校教育の学びのつながりのイメージ

まったく別のもののように思えるが、内容のつながりを見ていくと、幼児教育での学びが土台となって小学校での教科に沿っての学びにつながっていくことが分かる（図6）。

小学校においては、学びがどのように培われてきたのかを理解した上での指導を、幼児期の教育においては、学びがどのようにつながっていくのかを見通した指導を行うことが重要である。これを、学びをつなぐ指導と考える。その際、どちらかの教育に合わせるのではなく、互いの教育を理解した上でどのような指導を行っていけばよいかを探っていくことで、幼小の段差を滑らかなものにし、幼児期に遊びを通して培った学びの芽生えを、小学校での学習につなげていけると考えた。

5 研究構想図



Ⅶ 研究の計画と方法

本研究では、幼小の学びのつながりに視点を当てた質問紙調査を行う。まず、担任の目から見た、入学した子どもたちの戸惑いについて把握し、それを基に幼小の教職員の意識や指導の違いや共通点を明らかにする。次に、幼児教育における子どもの姿と指導について知るための保育参観を行い、そこで得られた具体的な事例と総合して考察することにより、小学校のスタートの時期に必要な、幼小の学びをつなぐ指導のポイントを明らかにしたいと考えた。

1 質問紙調査

(1) 調査対象

群馬県内公立幼稚園82園中68園、私立幼稚園 123園中93園、公立・私立保育所 420園中 201園の年長児担任、小学校 329校中 183校の1年生担任（各校・園共に1名ずつ）を、地域や規模を考慮して標本抽出し、調査対象とする。

(2) 調査内容

「幼小接続にかかわる調査」として、以下の内容について回答を求める。

① 担任の目から見た子どもたちの戸惑い

幼小の教職員それぞれの立場から、具体的な子どもの姿として担任が感じる子どもたちの戸惑いについて、1年生担任には、「1学期を振り返って、先生目から見て子どもたちの戸惑いが大きいと感じたこと」、年長児担任には、「年長児の子どもたちが、入学後、学校生活に慣れるまでに戸惑いが大きいと思われること」として、複数選択及び自由記述にて回答を求める。

② 幼小の教職員の意識や指導

〈小学校スタートの時期に有効な手だて〉

小学校1年生担任には、「1年生の担任として、4～5月に特に意識して行ったこと」、年長児担任には、「幼児教育と小学校教育を滑らかにつなげるため、1年生のスタートの時期の教育に有効だと思われる手だて」として、複数選択及び自由記述にて回答を求める。

〈幼児教育において育てたい力〉

年長児担任には、「幼児教育において育てたい力」、小学校1年生担任には「幼児教育において育ててほしい力」として、複数選択にて回答を求める。

2 保育参観

(1) 対象

所属校への入学児童が多い園の中から、幼稚園（A園）・保育所（B・C園）、計3園において、主に年長児の活動や指導の様子について参観を行う。

(2) 参観計画

A園	10月～12月(計4回)…継続して参観を行い、子どもの育ちとそれに応じた教師の指導を把握する。
B園 C園	11月(各1回)…各園における保育参観を行い、子どもの姿と保育士の指導を把握する。

(3) 参観の視点

子どもの姿	子どもの実態と活動の様子を観察し、子どもたちが遊びの中でどのような学びを体験しているか	
指導	環境の構成	子どもが主体的に活動にかかわれるような環境（人・もの・場）をどのように構成しているか
	援助	一人一人の関心・意欲や育ちを踏まえた子どもへの接し方、声の掛け方、援助の仕方はどのようなものか

3 分析の方法

保育参観を通して把握した子どもの姿や指導について、参観の視点に沿って記録しておく。質問紙調査の結果と参観を通して把握した子どもの姿と指導を関連させて分析を行うことにより、幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ指導のポイントを明らかにする。

Ⅷ 研究の結果と考察

質問紙調査（県内小学校1年生担任 135名回答・年長児担任 279名回答）により、幼児教育から小学校教育に移行する際の、担任の目から見た入学した子どもたちの戸惑いについて尋ねた。「学習の内容」「学習の方法・形態」「人とのかかわり」「生活」という四つの場面ごとに、小学校1年生担任には「1学期の子どもたちの様子を振り返って、子どもたちの戸惑いが大きいと感じたこと」、年長児担任には「入学後、学校生活に慣れるまで戸惑いが大きいと思われること」について回答を求めたところ、次のような結果となった（表1）。幼小それぞれの立場から子どもたちの戸惑いとして選んだ割合が高い項目を幼児教育と小学校教育の段差ととらえ、四つの場面ごとに考察を行うことにした。

表1 担任の目から見た子どもたちの戸惑い

項目	学習の内容										学習の方法・形態					人とのかかわり				生活							
	文字や文を読むこと	文字や文を書くこと	自分の思いや考えを皆の前で話すこと	教師や友達の話聞くこと	数を数えたり計算をしたりすること	絵や文字で自分の思いを表現すること	少人数で伝え合ったり話し合ったりすること	身近な自然や生き物にかかわること	教科書を使って学習すること	椅子に座り、机に向かって学習すること	四十五分間の授業時間で学習すること	教師の言葉による説明で学習すること	一斉学習の形態で学習すること	知識や技能を身に付けなければならないこと	全員が同じ目標に向かって学習すること	学習の到達度が評価されること	小学校の教員の言葉がけや接し方に慣れること	新しい友達と人間関係をつくること	上級生のかかわりが増えること	施設や設備が大きいこと	係や当番の仕事をする	自分で荷物を持ち、歩いて登校すること	自分で持ち物の整理や管理すること	チャイムや時間の区切りで行動すること	トイレに行く時間や使い方に慣れること	時間内に給食を食べること	給食の配膳や後片付けをすること
小学校(135人)	21%	30%	55%	39%	8%	21%	31%	3%	6%	31%	49%	37%	28%	7%	16%	3%	10%	22%	4%	7%	7%	36%	52%	61%	43%	85%	19%
幼稚園・保育所等(279人)	15%	31%	37%	11%	16%	13%	9%	3%	28%	37%	67%	38%	28%	12%	9%	31%	44%	35%	16%	24%	1%	47%	29%	49%	39%	42%	7%

注 数値が塗りつぶしてある部分…幼小それぞれ数値が高い上位10項目

1 学習の内容

(1) 質問紙調査より

① 担任の目から見た子どもたちの戸惑い

学習の内容にかかわる回答を見ると（図7）、「身近な自然や生き物にかかわること」については、1年生担任・年長児担任共に3%にとどまり、子どもたちにとって戸惑いは小さいという回答が得られた。これに対して、「話すこと（それぞれ55%・37%）」「書くこと（30%・31%）」などの言葉の学習にかかわる内容について「戸惑い」として挙げた割合が高かった。

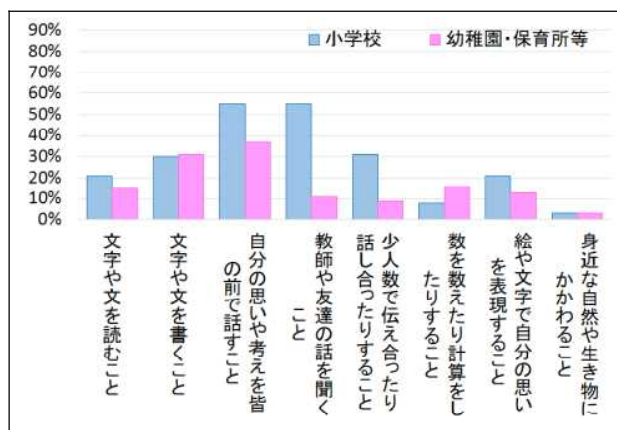


図7 学習の内容にかかわる子どもたちの戸惑い

「聞くこと」については、1年生担任の39%が戸惑いとして挙げているのに対して、年長児担任の回答は9%であった。しかし、自由記述を見ると（表2）、「聞くこと」に関しては、1年生担任と同様に、年長児担任も幼稚園・保育所の時よりも大勢の中で聞くことや静かに座って話を聞くことが戸惑いになっていると記述している。また、「書くこと」に関しては正確さが求められることについて、両者が戸惑いとして記述している。

表2 「話すこと・聞くこと」「書くこと」についての戸惑い（自由記述より）

話すこと・聞くこと（○1年生担任・◎年長児担任）	書くこと（○1年生担任・◎年長児担任）
○皆の前で発表すること	○とめ、はらい、筆順など、正しい文字を書くこと
○静かに話を聞くこと	○文字は書けるが文を書くのが難しいこと
○姿勢よく話を聞くこと	◎物の名前、絵本などを通して生活の中で触れてきた様々な言葉を、文字や言葉として書き表すこと
◎手を挙げて発言すること	◎線からはみ出ると不正解になるなど、正確さを求められること
◎授業中静かに座って聞くことや私語を慎むこと	
◎クラスの数が増えること（話すこと・聞くこと）	

また、「話すこと」については、挙手をして発言したり、大勢の前で話したりするなど、発言の仕方や話したり聞いたりする際の形態、人数が変わることが、両者共に子どもたちにとっての戸惑いと見ている。

これらのことから、学習の内容については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」という、「言葉や文字の学習」を幼小の段差ととらえる。

② 接続期における幼児教育と小学校教育 〈小学校スタートの教育〉

「言葉や文字の学習」にかかわる項目を見ると（表3）、大事なことを落とさないように聞くための指導、子どもたちの興味・関心が持続するような授業作りや友達とかかわる場の設定が小学校スタートの時期に有効であると、1年生担任・年長児担任共に回答している。そこで、幼小の担任が共通して有効であると認識しているこれらの手だてに着目して、「話すこと・聞くこと」「書くこと」という言葉や文字の学習における指導の在り方を見直していきたいと考える。

〈幼児教育において育てたい力〉

1年生担任と年長児担任の回答を比較すると（図8）、「先生や友達の話最後まで聞くこと（それぞれ84%・88%）」「様々な友達とかかわりながら一緒に遊びを進めていくこと（76%・79%）」については、両者共に回答率が高い。しかし、「経験したことや思ったことを自分なりの言葉で伝えること（45%・94%）」については、両者の意識に違いが見られた。

「話すこと」にかかわる自由記述を見ると（表4）、「自分の思いを」「自分なりに」等の記述が見られ、幼児教育では、子どもたちの自由な表現をより大切にする傾向があることが分かる。そのために、毎日の生活の場や行事を通して友達とのかかわりを深め、意欲をもって話したり聞いたりする場を作っている。書くことについても同様に、実生活と結び付け、文字や言葉に親しめるような工夫をしていることが分かった。

(2) 保育参観より

学校でも行っている朝の会・帰りの会での当番（日直）の話など、話したり聞いたりする活動を取り入れている園は多い（表5）。また、行事や発表会などの場で、どの子にも発表の機会を作ることで伝える喜びを味わえるようにしていることが分かった。お店屋さんごっこの中でも、友達と、「もっとこうしてみよう」「〇〇を作ってみよう」「じゃあ、ぼくはこれをする」など、互いの気持ちを言葉で伝え合いながら遊びを深める様子が見られた。書くことについても同様

表3 言葉や文字の学習にかかわる有効な手だて

項目	小学校	幼稚園・保育所等
大事なことを落とさないように聞けるような言葉掛けをすること	73%	56%
子どもたちの興味・関心が持続するような授業の構成を工夫すること	74%	67%
子どもたちがいろいろな友だちとかかわれるような場を設定すること	54%	48%

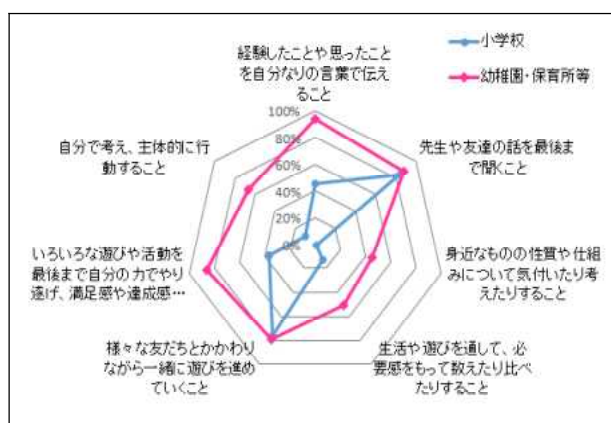


図8 幼児教育において育てたい力（学習）

表4 幼稚園・保育所等における実践例（自由記述）

話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことなどを伝え合う場（朝の会や帰りの会、行事の際の紹介やインタビューなど）どの子にも発表の場を与える。 友だちとのかかわりの中で、自分の思いを表現できるよう援助する。 全員が話す機会をもつことで、相手の話も聞こうとする態度を養う。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で文字や言葉に親しめるようにする。

表5 年長児の活動の様子（参観の記録から）

話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会や帰りの会で、当番の幼児が前に出てクラスの皆の前で話をする。年長児になると、自信をもって話せる子が多い。 運動会の競技の紹介を、観客の前で年長児が行っている園もあった。様々な行事を通して、どの子も大勢の前で話す経験をしている。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> お店屋さんごっこで遊ぶ中で、メニューやお店の看板が必要になり、友達と相談しながら書いていた。書きたいと思った時に、すぐに紙や筆記用具を使えるよう、環境が構成されていた。

に、遊びを楽しむ中でメニューや看板を書くことが必要になり、相談をしながら書いていた。このように、幼児教育では、子どもたちが必要感をもって話したり書いたりする場作りや、生活と結び付けて、文字や言葉に関する興味や関心を高める環境構成などの工夫をしていると言える。

(3) 考察

言葉や文字にかかわる指導については、幼児教育においても小学校教育においても、共に重視していることが分かった。しかし、幼児教育と小学校教育では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に対して期待する子どもの姿についての認識が異なる。すなわち、生活や活動の中で必要な事柄を聞くことを重視する年長児担任と、姿勢や聞く態度なども含めて「きちんと聞くこと」を習慣付けたいと考える1年生担任とでは、「聞くこと」についての認識が異なっているのではないかと考える。「書くこと」についても同様に、初めて学習する平仮名を正しくきちんと書けるようにしたいと願う1年生担任と、毎日の生活と密着して文字や言葉に触れ、興味・関心を高めることや、遊びの中で必要感をもって文字に親しむことを大切にしている年長児担任とでは、意識の違いが見られる。また、「① 担任の目から見た子どもたちの戸惑い」の結果からも分かる通り、「身近な自然や生き物にかかわること」のように、体験を通して実感をもって学ぶことは、子どもたちにとって幼児期に十分経験してきたことであり、段差は少ないと考えられる。

以上のことから、幼小の学びをつなぐ指導のポイントを次のように考えた。

〈言葉や文字の学習〉における幼小の学びをつなぐ指導のポイント

子どもたちが幼児期に経験してきた、遊びを通して子どもたちが自分の思いを伝え合い、必要感をもって話す・聞く・書く場を設定する。子どもたちにとって必要感があり、興味・関心をもって取り組める身近な題材を取り入れること、また、そのような活動を繰り返し行うことで伝え合う喜びを味わえる経験を積み重ねていくことが重要である。

2 学習の方法・形態

(1) 質問紙調査の結果と考察

① 担任の目から見た子どもたちの戸惑い

1年生担任と年長児担任の、学習の形態や方法にかかわる子どもたちの戸惑いについての回答を見ると(図9)、「45分間の授業時間(それぞれ49%・67%)」「教師の言葉による学習(37%・38%)」「座学(31%・37%)」「一斉授業(28%・28%)」などの学習の方法・形態が変わることに大きな戸惑いを感じているという結果となった。「教科書を使って学習すること」については、年長児担任の28%が戸惑いとして回答しているのに対して、1年生担任の回答は6%にとどまり、意識の違いが見られた。また、年長児担任の記述による回答の中には、「45分間座って学習することは難しい」「一斉学習によって、理解できなくても授業が進んでしまうのではないか」という不安も多く見られた。

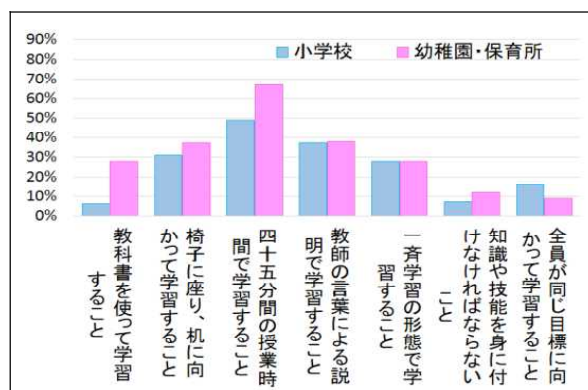


図9 学習の方法・形態にかかわる子どもたちの戸惑い

これらのことから、このような「学習の方法・形態の違い」を幼小の段差ととらえる。

② 接続期における幼児教育と小学校教育 〈小学校スタートの教育〉

学習の形態や方法にかかわる項目を見ると(図10)、1年生担任と年長児担任に共通して高い項目は、「子どもたち一人一人の伸びや努力を認めてほめること(59%・85%)」「子どもたちの興味・関心が持続するような授業の構成を工夫すること(74%・67%)」であった。しかし、「ほめること」は年長児担任が、「興味・関心」

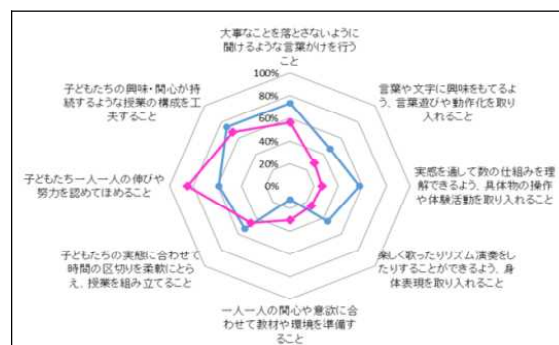


図10 小学校スタートの時期に必要な手当て

は1年生担任がより高い割合で挙げている。さらに、1年生担任の回答では、「実感を通して数の仕組みを理解できるよう、具体物の操作や体験活動を取り入れること(58%)」「楽しく歌ったり、リズム演奏をしたりすることができるよう、身体表現を取り入れること(44%)」など、学習内容の充実にかかわる項目も高かった。小学校教育では、子どもたちが小学校での新しい学習に興味・関心をもって取り組んでいけるよう、学習内容を工夫した教育を行っていると言える。

〈幼児教育において育てたい力〉

学習面において1年生担任と年長児担任の意識の差が大きかった項目は、「身近なものの性質や仕組みについて気付いたり考えたりすること(1%・45%)」「生活や遊びを通して、必要感をもって数えたり比べたりすること(13%・51%)」「いろいろな遊びや活動を最後まで自分の力でやり遂げ、満足感や達成感をもつこと(37%・86%)」「自分で考え、主体的に行動すること(10%・66%)」であった(図11)。

年長児担任による自由記述(表6)から、子どもたちが遊びを通して自ら考え、気付き、自分の力でやり遂げることを大切にしたい指導を行うことで、子どもたちの内面から出てくる満足感、達成感、主体性を育てることを重視していることが分かった。

(2) 保育参観より

泥団子作りや落とし穴遊びの例を挙げたように(表7)、子どもたちは、何日もかけて同じ遊びを楽しむ中で、自分なりに考え、気付き、発見しながら学んでいる様子であった。泥団子を固くするためにどのくらい水を混ぜるとよいか、光らせるためにどのような砂を集めたらよいかを相談したり、さらさらの砂を作るために何度も集めた砂をふるったり、落とし穴を上手に作るために砂の湿り気や重みに耐えられる材料を見付けたりするなど、遊びを通して試行錯誤しながら、土や砂の性質に気付き、科学的なものの見方の素地を養っていると言える。そのように、好きな遊びに没頭し、やり遂げることで、子どもたちは満足感をもち、さらに新たな遊びを発展させていく様子が見られた。指導者は、そのような学びの芽を育てるために、すぐに答えを与えるのではなく、子どもたちが自ら気付いていけるような環境構成や言葉掛けを行い、伸びや努力を誉めることで、一人一人の思いを大切にしたいきめ細かく柔軟な対応をしていた。

(3) 考察

45分間、きちんと座って学習するのは、1年生になったばかりの子どもたちにとっては難しいことであると考えられる。また、小学校の担任にとっては必然である教科書による学習・言葉による一斉授業も、幼児期に遊びを中心として生活してきた子どもたちにとっては経験のないことであり、戸惑いが大きいと思われる。そこで、このような小学校での学習に慣れていくためには、幼児期の学び方を生かした接続期の学習の形態や方法について考えていく必要がある。

また、このような学習の形態や方法の違いは、幼児教育の遊びを通して総合的にはぐくまれる学

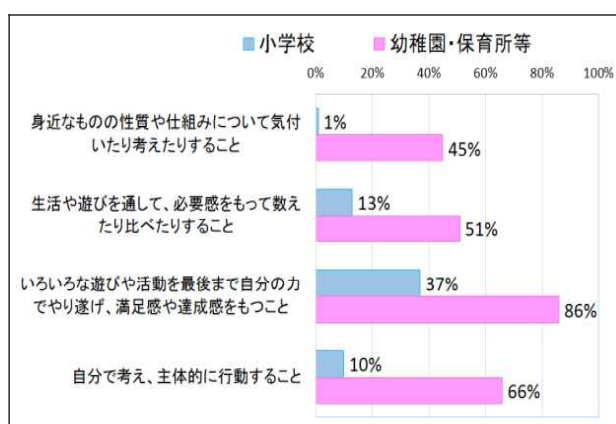


図11 幼児教育において育てたい力

表6 幼稚園・保育所等における実践例(自由記述)

身近なものの性質や仕組みへの気付き	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中でいろいろなものに触れる中で自ら気付けることを促す。 子どもたちの気付きを促すような場面や環境の構成を工夫する。
主体的に行動すること	<ul style="list-style-type: none"> すぐに援助したり指導者が答えを出すのではなく、自分たちで考えさせる。 自分でできるまで待つ姿勢をもつ。 自分の力でできたことを認める。

表7 年長児の活動の様子(参観の記録から)

身近なものの性質や仕組みへの気付き	<ul style="list-style-type: none"> 泥団子作りをする時、どうやったら割れないか、光るようになるか、形を整えられるか、磨くときのさらさらの砂をどうやって作るかなど工夫して遊んでいる姿が見られた。夢中で遊びに没頭する中で、失敗や成功を繰り返し新たに発見したり、友だちと教え合ったりして気付きを深めていた。
主体的に行動すること	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや活動を通して、自分なりに何をしたらよいかを考え、行動する場を作っている。 ① 砂場で落とし穴を掘っている子どもたちが、穴に蓋をするために、子どもたち同士で話し合い、新聞紙、ビニール、段ボールと、試行錯誤をしながら材料を改良していく様子が見られた。 ② 秘密基地を作るために必要なもの(テーブルや椅子、旗、道具など)を集め、自分たちでルールを決めたり、仲間を増やしていったりしながら遊びを広げていた。

びと、小学校教育の教科を通してねらいを達成する学びとの間に、学び方の違いがあることから生じていると考えられる。これは、幼小の教育の違いからくる段差ではあるが、小学校のスタートの時期には、この段差をより小さなステップにして、子どもたちの戸惑いを小さくしていくと共に、子どもたちが自ら段差を乗り越えていこうとする気持ちをもてるような手だてが必要である。そのためには、幼児期に子どもたちがどのような経験をしてきているかを理解すると共に、小学校スタートの時期に、子どもたちの気付きを促し関心を高める幼児教育における指導の在り方をより意識して取り入れていくことが重要であると考えられる。

以上のことから、幼小の学びをつなぐ指導のポイントを次のように考えた。

〈「学習の方法・形態」における幼小の学びをつなぐ指導のポイント〉

子どもたちが45分間の授業時間や、座学などの小学校での学習形態に慣れていくことができるよう、時間の流れを柔軟にとらえた授業の構成や、子どもたちにとって興味・関心をもてるような身近な題材を取り入れ、体験を通して自ら気付き、学ぶことで成就感を味わえるような活動を取り入れていくことが重要である。

3 人とのかかわり

(1) 質問紙調査より

① 担任の目から見た子どもたちの戸惑い

1年生担任と年長児担任の、友達、上級生、小学校の教員といった、人とのかかわりについての回答を見ると（図12）、「友達との人間関係作り（それぞれ22%・35%）」が、両者から戸惑いとして挙げられている。どの項目においても、1年生担任と比較して年長児担任が子どもたちの戸惑いとして挙げた割合が高かった。特に、「小学校の教員の言葉掛けや接し方に慣れること」については、1年生担任が10%であるのに対し、年長児担任は44%であった。また、教師の子どもに対する見方にかかわって、「学習の到達度で評価されること」についても、1年生担任の3%に対して、年長児担任の回答は31%であった。自由記述では、年長児担任の回答から、「言葉掛けや言葉づかいの違い」「一人一人と接する時間が少なくなること」「最年長としての接し方から、最年少としての接し方に変わること」などが挙げられていた。

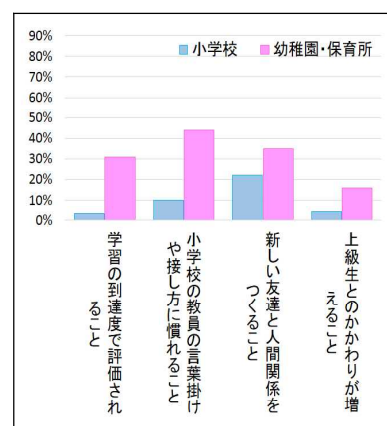


図12 人とのかかわりにおける子どもたちの戸惑い

これらのことから、人とのかかわりについては、「新たな人間関係作り」や「教師の接し方」を幼小の段差ととらえる。

これらことから、人とのかかわりについては、「新たな人間関係作り」や「教師の接し方」を幼小の段差ととらえる。

② 接続期における幼児教育と小学校教育〈小学校スタートの教育〉

1年生担任が意識して行った項目の中で、1年生担任と年長児担任の、人とのかかわりについての回答を見ると（図13）、「いろいろな友達とかかわれるような場を設定すること（54%・48%）」「子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、教師とのかかわりを深めること（58%・76%）」が高くなっている。

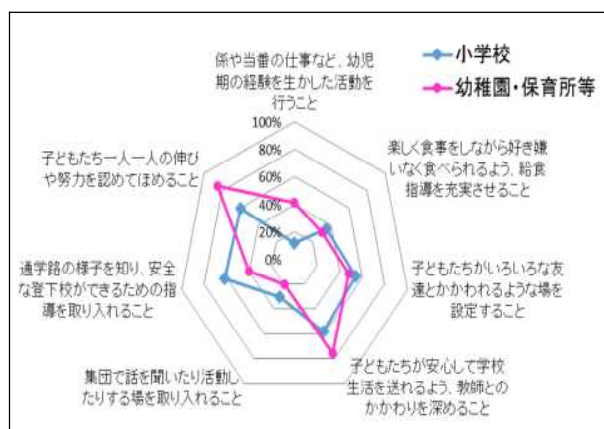


図13 小学校スタートの時期に有効な手だて

特に、教師の子どもに対する見方・接し方にかかわる項目を見ると、「教師とのかかわりを深めること（58%・76%）」「子どもたちが一人一人の伸びや努力を認めほめること（59%・85%）」について、幼小それぞれの立場から「意識している」「有効である」と回答している割合が高い。幼小を比較すると、どちらの項目も、小学校に送り出す立場である年長児担任の方の回答率が高く、小学校スタートの教育において教師とのかかわりが重要であるととらえていることが分かった。

〈幼児教育において育てたい力〉

1年生担任と年長児担任の、人とのかかわりにおける項目を見ると（表8）、「いろいろな友達とのかかわりを通して相手の気持ちを大切に行動すること（76%・84%）」は、両者とも回答率が高い。しかし、「周りの人とふれあう中で、自分が役に立つ喜びを感じる」（19%・48%）「自分で考え、主体的に行動すること（10%・66%）」「いろいろな遊びや活動を最後まで自分の力でやり遂げ、満足感や達成感をもつこと（37%・86%）」「困難なことにつまずいても、気持ちを切り替えて前向きに取り組もうとすること（36%・69%）」については意識の違いが見られた。

表8 人とのかかわりにおける幼児教育で育てたい力

項目	小学校	幼稚園・保育所等
いろいろな友達とのかかわりを通して、相手の気持ちを大切に行動すること	76%	84%
周りの人とふれあう中で、自分が役に立つ喜びを感じる	19%	48%
自分で考え、主体的に行動すること	10%	66%
いろいろな遊びや活動を最後まで自分の力でやり遂げ、満足感や達成感をもつこと	37%	86%
困難なことにつまずいても、気持ちを切り替えて前向きに取り組もうとすること	36%	69%
〈自由記述より〉 ・人とのかかわりの中で、自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりする経験をさせる。 ・友達とのトラブルは、自分たちで解決できるよう支援する。 ・すぐに援助したり指導者が答えを出すのではなく、自分たちで考えさせる。 ・自分でできるまで待つ姿勢をもつ。 ・自分の力でできたことを認める。 ・クラス全体で、行事に向けてみんなで協力する。 ・結果ではなくやり遂げたことを認める。		

様々な人とのかかわりの中でも、友達とのかかわりは幼小どちらも重要であると考えていることが分かる。また、年長児担任の自由記述からも分かる通り、年長児は、自ら考え、主体的に活動することを最年長児として期待されている。しかし、1年生になったと同時に最年少児としての接し方になるとすれば、それは子どもたちにとって大きな段差であると考えられる。

(2) 保育参観より

表9 年長児の活動の様子（参観の記録から）

幼児教育においては、遊びを通して様々な人とのかかわりを深めると共に、子どもたちが自分なりに何をしたらよいかを考え、自ら行動できる場を作っている。具体的な場面における年長児の様子を右に挙げる（表9）。幼児教育において子どもたちは、遊びの中で友達とかかわり合い、遊びを深めている。鬼ごっこやリレーなど、ルールを決めて集団で遊ぶことも多い。相談したり、時には意見が合わずトラブルになっても、互いの気持ちを伝え合ったりすることで「そうしよう」「それでいいよ」と折り合いを付け、自分たちで解決しようとする姿が見られた。園庭での自由遊びの時間には、他学年の子と遊んだり、行事を通して交流したりする機会も多い。また、協力して朝の会や帰りの会、給食など当番の仕事を行うことや年長児として他学年のために働くことで、自らの役割を認識し進んで活動する姿も見られた。運動会やお遊戯会などの行事では、クラスや学年で一つの目標に向かって取り組むことも経験してきていることが分かった。そのための練習では、劇や合奏における自分の役割に意欲をもち、難しい台詞や演奏にも挑戦し、繰り返し取り組みながら、やり遂げようとする様子も見られた。子どもたちが意欲をもって主体的に取り組めるよう、指導者は、子どもたちが自分たちで解決できるよう見守る姿勢をもつと共に、一人一人の頑張りや伸びを認め励ます言葉掛けを行う様子が見られた。

人とのかかわり	・集団で遊ぶ際、ルールを決めたり友達に声をかけたりしながら自分たちで遊びを工夫して行っていた。
役に立つ喜び	・遊んだあとの道具の片付けを、年長児の役割として率先して行っている様子が見られた。 ・動物の世話を毎日行うことで、生き物に対する愛着と共に、自分の役割を果たす責任感や皆のために働く意欲をもって活動していた。
主体性達成感満足感	・運動会、お遊戯会、発表会などの行事に向けて、演技や劇、合奏を行ったりして、クラス全体で一つの目標に向かって創り上げる経験をしている。皆と力を合わせるとともに、一人一人が自分の役割をやり遂げることで自信をつけていく様子が見られた。

(3) 考察

調査と保育参観から、幼児教育において、子どもたちは、様々な友達とかかわる中で自分の思いを伝えること、相手の思いを知ることを経験してきていることが分かった。また、友達とのトラブルをできる限り子ども自身に解決させることで、相手の気持ちを考えて行動しようとする気持ちを育てていることも分かった。小学校に入学すると、学年や学級の人数が増えることが子どもたちの戸惑いとなっていることは、「1 学習の内容」の項で述べたとおりである。それに加え、複数の園から新生を迎える学校が多いことを考えると、友達や上級生、教師という新たな人間関係を築くことは、小学校に送り出す幼児教育の立場では不安の大きいことであり、子どもたちにとつ

ては大きな戸惑いであると言える。

小学校の教師の接し方については、年長児担任が子どもたちの戸惑いとして挙げているが、子どもたちが安心して小学校生活をスタートさせるために、教師とのかかわりを深めることの重要性は、幼小の担任が共に意識している。調査と保育参観から、子どもたちは幼児期に様々な遊びや活動の場面において、自分たちの力でやり遂げる喜びや達成感を味わう経験をし、意欲を育てていることが分かった。特に、年長児になると、行事に向けてクラス全体で協力して創り上げていく経験をし、集団の中で主体的に取り組む気持ちを育ててきている様子も見られた。その中で、やり遂げる喜びや困難に負けない気持ちも育ててきていると言える。小学校生活のスタートにおいては、すべてが一からのスタートではなく、「自分でできる」という自信をはぐくんできた子どもたちであることを十分理解しておかなければならない。経験のあることについては、見通しをもって行うことができるようになってきている子どもたちが、小学校に入学して戸惑いを感じるとすれば、「できない」からではなく、新しい環境の中で「知らない」ことが多いからだと考えられる。だからこそ、小学校スタートの時期には、到達度によって「できた」ことを評価する以上に、一人一人の頑張りや伸びを認める見方、子どもたちの意欲を大事にするかかわり方がより重要になる。

以上のことから、幼小の学びをつなぐ指導のポイントを次のように考えた。

〈「人とのかかわり」における幼小の学びをつなぐ指導のポイント〉

【新たな人間関係作り】

小学校の入学を機に新しい友達や学校生活を送る上で身近な人とのかかわりが広がる。そこで、幼児期に経験してきたことを生かし、遊びを通して友達とのかかわりを深める場の設定や、授業の中にも友達との交流を取り入れ、共に学べる授業作りを行うことが重要である。小学校のスタートの時期には、学校の施設や人に慣れ、身近な人との交流を通して学ぶ「学校たんけん」を中心に授業の構成を行っていくことも効果的であると考えられる。

【教師の接し方】

「学びの芽生え」が基盤にあるからこそ、小学校での教科を通した「自覚的な学び」が可能になると考えられる。幼児期の経験を生かし、自分の役割に自信をもって主体的に活動できる場の設定を行うことが重要である。また、子どもたちが安心して学校生活をスタートし、「園児」から「小学生」として新たなことに挑戦していけるよう、頑張りや伸びを認める言葉掛けや待つ姿勢を取り入れていくことが大切である。

4 生活

(1) 質問紙調査より

① 担任の目から見た子どもたちの戸惑い

小学校での生活面についての回答を見ると(図14)、小学校1年担任・年長児担任共に戸惑いが大きいと回答した項目は、「チャイムや時間の区切りで行動すること(61%・49%)」「時間内に給食を食べること(85%・42%)」「トイレに行く時間や使い方に慣れること(43%・39%)」という時間の区切りにかかわる項目と、「自分で荷物を持ち、歩いて登校すること(36%・47%)」であった。

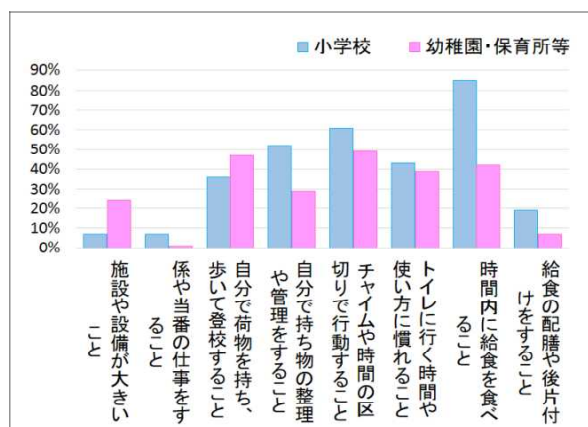


図14 生活面における子どもたちの戸惑い

幼稚園・保育所等では、保護者の送迎や園バス等での登降園が一般的である。小学校に入学すると、ランドセルを背負って徒歩での登下校になる。また、学習面での授業時間と同様、一日の生活時間が教科の学習を中心として、休み時間、給食、掃除などについても細かく区切られている学校生活は、幼児教育の中では経験のなかった生活であり、慣れるまで戸惑うことが多いと考えられる。

これらのことから、生活面において、「時間の区切り」を幼小の段差ととらえる。

② 接続期における幼児教育と小学校教育

〈小学校スタートの教育〉

時間の区切りについて、1年生担任が意識して行ったことを見ると（表10）、時間の区切りを柔軟にとらえ、新しい施設や時間の流れに徐々に慣れていけるような配慮を挙げている。これらの項目については、年長児担任も「有効である」と回答した割合が高い。また、1年生担任の記述では、時間の流れや予定を視覚的にとらえられるような提示の仕方も有効であるとの回答を得た。小学校生活のスタートにおいては、学校での生活リズムに慣れていけるような柔軟な時間の設定が必要であると考える。

表10 時間や場の区切りについて有効な手だて

項目	小学校	幼稚園・保育所等
学校の施設や生活に慣れ、楽しく安心して生活できるような活動を取り入れること	72%	64%
時間の区切りを柔軟にとらえ、授業を組み立てること	53%	46%
〈自由記述より〉 ・時間の弾力化（徐々に長い時間に慣れるようにすること） ・時間の流れ・予定を絵や文字で視覚化		

〈幼児教育において育てたい力〉

時間の区切りにかかわる回答を見ると（図15）、「生活の流れを見通して生活する力」を、年長児担任の53%が育てたい力として回答しているのに対して、1年生担任の回答は8%となり、意識の差が見られた。この力を育てるための実践例として、年長児担任の自由記述では、「朝の会で一日の流れを伝える」「カレンダーやボードを活用して生活の流れが分かるようにする」「毎日行うことについては習慣付けしていく」などの工夫が見られた。これらの手だては、1年生担任も小学校スタートの時期に意識して行っていることであり、小学校担任が期待する以上に、年長児担任は、環境の構成や言葉掛けを工夫しながら、子どもたちが自ら見通しをもった生活ができるような援助を行っていることが分かる。

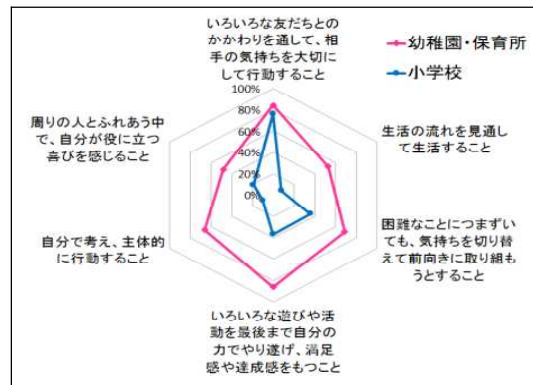


図15 幼児教育において育てたい力

(2) 保育参観より

協力校と参観した園の一日の流れの例を右に示す（図16）。小学校での生活は、細かい時間の区切りがあるのに対して、幼稚園・保育所では全体的に時間の区切りが大きく、ゆったりとした時間の中で子どもたちは遊びを深めていた。指導者は、一日の大きな流れを見通して、子どもたちの実態に合わせて環境を構成したり、一人一人の様子を見ながら支援を行ったりしていた。また、子どもたちが時間の見通しをもって生活できるよう、様々な工夫をしている事例を次に示す（表11）。

	小学校	幼稚園	保育所
8:00	登校 8:15	登園 8:00~	登園 8:00~
8:15~8:50	朝の会・朝の会	自由遊び	リズム体操 (全員で)
9:00	1校時 8:50~9:35	自由遊び ・遊具遊び ・新聞子作り ・鬼ごっこ など	自由遊び ・遊具遊び ・絵本・読書
10:00	2校時 9:35~10:20	朝の会 10:20~10:40	自由遊び ・遊具遊び ・新聞子作り
11:00	3校時 10:40~11:25	本の貸し出し 楽器遊び	朝の会 10:30~10:50 自由遊び 10:50~11:20
12:00	4校時 11:30~12:15	給食 11:50~13:15 掃除き・休息	自由遊び 11:20~11:40
13:00	給食 12:15~13:05 清掃 13:05~13:30	給食 11:50~13:15 掃除き・休息	給食 11:40~
14:00	5校時 13:50~14:35	自由遊び 13:15~14:20	楽器遊び 13:45~14:35
15:00	6校時 14:35~14:50 帰りの会 15:00	降園 14:20	自由遊び ・遊具遊び ・新聞子作り おやつ 15:20~15:50 帰りの会 15:50~16:00 降園 16:00

図16 小学校・幼稚園・保育所のある一日の活動例

表11 時間の見通しをもって生活するための環境構成の例（年長児クラスの様子から）

予定表やカレンダーの活用	時間を意識して活動するための時刻の表示		
	①時計の模型による終了時刻の表示 	②現在の時刻（実物）と模型での終了表示 	③長い針の読み方を示した掲示
日付やカレンダーに書き込まれた予定を見ながら朝の支度をする様子が見られた。	*指導者は、「長い針が〇になるまで」など、子どもたちが時間の見通しをもって生活できるよう声掛けをしていた。		

(3) 考察

年長児は、身支度や給食の準備・片付け、道具の出し入れ、朝の会帰りの会など、毎日行う活動については、指示がなくても次の活動を見通し、自ら進んで行うことができるようになっている。また、環境構成の例として挙げたように、園によって方法の違いはあるが、時間を意識して活動の見通しをもつことができるような提示や声掛けを工夫することで、子どもたちは幼児期から時間を意識した生活を経験してきている。調査の結果から分かるとおり、幼児教育と小学校教育の生活の中で最も大きな違いは、時間の区切りにあると言える。

以上のことから、幼小の学びをつなぐ指導のポイントを次のように考えた。

〈「時間の区切り」における幼小の学びをつなぐ指導のポイント〉

小学校スタートの時期には、時間の区切りを柔軟にとらえ、一日の活動時間が細かく決められている学校の生活リズムに徐々に慣れていけるようにすることが重要である。また、子どもたちが幼児期にはぐくんできた「見通しをもって主体的に生活する力」を小学校生活に生かしていけるよう、幼児教育における環境構成の工夫を取り入れて、子どもたちが時間の見通しをもって生活できる計画や掲示の工夫をすることも重要である。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- 質問紙調査を通して、入学した子どもたちの戸惑いを分析し、「言葉や文字の学習」「学習の方法・形態の違い」「新たな人間関係作り」「教師の接し方」「時間の区切り」という、子どもたちにとっての幼小の段差を明らかにすることができた。
- 子どもたちにとっての段差となる場面を基に分析を行い、幼小の教職員の意識や指導の違いや共通点を明らかにすることができた。また、その結果を基に保育参観を行い、幼児の様子や指導者の援助、環境構成の工夫を参観する中で、遊びを通して気づきを促したり、意欲や関心を高めたりしながら「学びの芽」をはぐくんでいる様子を知ることができた。
- 調査の結果から得た数値のデータ及び記述による回答と、保育参観で得た具体的事例を照らし合わせながら総合的に分析した結果、幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ指導のポイントとして以下のことを提言する。

〈提言〉

幼児教育から小学校教育への接続期には、「学びの基礎力の育成」という共通のねらいがあります。幼児教育と小学校教育を滑らかに接続していくために、互いの教育について理解し合い、学びのつながりを考えて自校の教育活動を見直しましょう。幼児期にはぐくんだ「学びの芽」が小学校での「自覚的な学び」につながるよう、次の学びをつなぐ指導のポイントを視点として、現在の教育活動をより充実させていきましょう。

小学校のスタートにおける学びをつなぐ指導のポイント

言葉や文字の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の経験を生かした話す・聞く・書く場の設定 ・ 子どもたちにとって必要感のある題材 ・ 伝える喜びを味わわせる経験の積み重ね
学習の方法・形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柔軟な時間の流れに沿ったスタートの計画 ・ 身近な題材を生かし、気づきを促す体験的な活動 ・ やり遂げることで成就感を味わわせる活動
人とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 〈新たな人間関係作り〉 ・ 遊びを通じた友達とのかかわりを深める場の設定 ・ 友達との交流を通して学ぶ授業づくり ・ 様々な人との交流（生活科「学校たんけん」） 〈教師の接し方〉 ・ 幼児期の経験を生かし、自信がもてるような指導 ・ 頑張りや伸びをほめる・認める言葉掛け、待つ姿勢 ・ 自分の役割をもって主体的に活動できる場の設定
時間の区切り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の区切りを柔軟にとらえたスタートの計画 ・ 見通しをもって主体的に生活できる活動計画 ・ 学校生活に慣れていける掲示の工夫

2 課題

- 幼児教育と小学校教育を滑らかに接続していくためには、授業参観・保育参観や情報交換等の交流を進めていながら、幼児教育と小学校教育の学びのつながりを実践的に理解していく必要がある。今後は、本研究を通して作成した「学びをつなぐ指導のポイント」を基に実践検証を行い、より学校や児童の実態に合わせたものになるよう、改善を加えていく必要がある。
- 本研究では、小学校教員の立場から調査と参観を行い、小学校スタートの時期における幼小の学びをつなぐ指導のポイントとしてまとめたが、幼児教育の視点からのポイントについても検討していくことで、より相互理解が深まり、滑らかな接続を推進していくことができると考える。

X 幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指して

1 交流を含めた実践的な接続の推進

本研究においては、調査と参観を通して幼児教育と小学校教育の学びをつなぐためのポイントをまとめたが、これを日々の教育活動に生かしていくためには、学校の実態や入学してくる子どもの様子を踏まえ、どのように取り入れていくかを十分に検討し、よりよいものにしていく必要がある。また、多くの学校では、複数の園から子どもたちが入学してくる実情を考えると、子どもたちが幼児期に経験してくることや育ちも様々である。だからこそ、幼小の教職員が互いに授業参観や保育参観を行ったり、情報交換の場を設けたり、共に研修する機会を作ったりして相互理解を深めることが重要になる。このような交流を計画的に進めていながら、実践的に互いの教育についての理解を深めることで、接続に向けての取組を行っていく必要がある。

2 組織的な幼小連携・接続の推進

今回の研究においては、小学校1年生担任及び年長児担任を対象に調査を行ったが、幼小の接続は、直接かかわる学年だけの問題ではない。幼児教育と小学校教育の滑らかな接続のためには、さらに組織的な計画・実践が必要だと考える。そこで、小学校において次のような取組を考えた。

- 校内研修において、幼小の滑らかな接続に向けての共通理解を図る。
- 幼稚園・保育所との情報交換、保育参観、授業参観等を年間の行事の中に計画的に組み込む。ねらいや内容を十分に話し合い、連携が深まるようにする。
- 子どもたちの交流についても、どの学年でどのような活動を行っていくのがよいかを検討し、学校の実態に合わせて進めていく。
- 保護者にも学校の取組を知らせていく。特に、新入児の保護者は、子どもたちと同じように不安を抱えている保護者が多い。就学時健診や一日入学の場で、また、入学後の懇談会等において、学校の取組や入学当初の1年生の生活や学びについて理解してもらう機会を設ける。

<参考文献>

- ・平成24年度幼児教育実態調査 文部科学省初等中等教育局幼児教育課
- ・お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校・中学校・こども発達教育センター 著 『接続期をつくるー幼・小・中をつなぐ教師と子どもの協働』東洋館出版社(2008)
- ・木村 吉彦 監修『スタートカリキュラムのすべて』ぎょうせい(2010)
- ・『保幼小の連携教育のカリキュラム作成に関する研究』高知県教育センター(2011)
- ・『幼児教育と小学校教育の連携ガイドブック』大分県教育委員会(2013)
- ・横山 真紀子 他『幼稚園の5歳児クラスにおける環境構成と保育者の援助のあり方ー幼小のカリキュラム接続に着目してー』奈良教育大学(2013)

<研究協力校・園>

富岡市立西小学校 七日市幼稚園 一峰保育園 かしの木保育園

<担当指導主事>

坂口 淳子 右井 義人



幼小接続にかかわる調査（小学校1年生担任対象）

幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との接続（以下幼小接続と表記する）に関する以下の項目について、あなたの考えをお聞かせください。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。

: 空白マーク

: 正しいぬりつぶし

: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

- (1) 【自由記述設問】 所属校名をお書きください。 〈例〉〇〇市立〇〇小学校

- (2) 【択一選択設問】 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の接続を見通したカリキュラム（以下幼小接続カリキュラムと表記する）についてお伺いします。以下の各項目について、あなたの学校の実態として当てはまるものをお答えください。（1つにマーク）

幼小接続カリキュラムを作成・実施し、よりよいものになるよう検討している。

幼小接続カリキュラムを作成・実施している。

幼小接続カリキュラムの作成はしていないが、これから作成する予定である。

幼小接続カリキュラムを作成する予定はない。

- (3) 【複数選択設問】 (2)で「作成している」と答えた方は接続カリキュラムを作成する際必要だった情報・役立った情報はどのようなものでしょうか。また、「作成していない」と答えた方は、作成する際に必要だと思われる情報はどのようなものでしょうか。次の項目から当てはまるものを選んでお答えください。（複数回答可）

互いにどのような教育を行っているか（教育の内容）

幼小の教師の教育観の違いや共通点

幼小の教育がどのようにつながっているか

幼小接続期の支援や指導上の手だて

先進校（園）における実践例

接続カリキュラムのモデル

その他（ ）

- (4) 【自由記述設問】 実際にカリキュラムを作成している学校では、具体的な実践例についてお書きください。



(5) 【択一選択設問】 幼小接続カリキュラムを作成していくことは、必要だと思いますか。どちらかを選んでお答えください。

- 必要である。 必要ではない。

(6) 【複数選択設問】 (5) で「必要である」と答えた方は、その理由を次の項目から選んでお答えください。(複数回答可)

- 幼小の連携を深めることができる。
- 子どもたちが小学校生活をスムーズにスタートすることができる。
- 幼児期の経験や学びを生かした指導ができる。
- 幼小接続期に必要な支援や手だてを明確にできる。
- カリキュラム化することで、見通しをもった指導ができる。
- カリキュラムに修正・改善を加えることで次年度に引き継いでいける。
- その他 ()

(7) 【自由記述設問】 (5) で「必要ではない」とお答えになった方は、その理由をお書きください。

(8) 【複数選択設問】 幼児教育において育ててほしい力についてお伺いします。1年生の担任として、幼稚園・保育所・認定こども園において、小学校入学までに育ててほしいことはどのようなことでしょうか。以下の項目から「特に育ててほしいこと」を選んでお答えください。(複数回答可)

- 経験したことや思ったことを自分なりの言葉で伝えること
- 先生や友達の話最後まで聞くこと
- 文字や言葉に対する興味・関心をもつこと
- 簡単な文字や言葉を読んだり書いたりすること
- 絵本や物語に興味をもつこと
- 身近な自然や動植物に親しみをもって接すること
- 自分なりの発想を生かして、自由に描いたり作ったりすること
- 身近なものの性質や仕組みについて気付いたり考えたりすること
- 生活や遊びを通して必要感をもって数えたり比べたりすること
- 自分の身の回りのことを自分ですること
- してよいことと悪いことの区別を考えて行動すること
- 指示に従って行動すること
- 集団生活の中で、見通しをもって活動に取り組むこと
- 姿勢よく椅子に座ること
- きまりを守って生活すること



- みんなで使う物を大切に使うこと
 - 周囲の人にあいさつすること
 - 様々な友達とのかかわりを通して、仲よく生活すること
 - 生活の流れを見通したり、周囲の状況を感じたりして、自分のすべきことを自覚して行うこと
 - 困難なことにつまずいても、気持ちを切り替えて前向きに取り組もうとすること
 - いろいろな遊びや活動を最後まで自分の力でやり遂げ、満足感や達成感をもつこと
 - 自分で考えて主体的に行動すること
 - 周りの人とのふれあいの中で、自分が役に立つ喜びを感じることに
 - その他()
- (9) 【複数選択設問】入学後、1年生の子どもたちが学習の場面で戸惑いを感じるのはどのようなことでしょうか。1学期の子どもたちの様子を振り返って、先生の中から見て「学習面で子どもたちのとまどいが大きいと感じたこと」を以下の項目から選んでお答えください。(複数回答可)
- | | |
|--|--|
| <input type="radio"/> 文字や文を読むこと | <input type="radio"/> 文字や文を書くこと |
| <input type="radio"/> 自分の思いや考えを皆の前で話すこと | <input type="radio"/> 教師や友達の話を聞くこと |
| <input type="radio"/> 数を数えたり計算をしたりすること | <input type="radio"/> 絵や文字で自分の思いを表現すること |
| <input type="radio"/> 少人数で伝え合ったり話し合ったりすること | <input type="radio"/> 身近な自然や生き物にかかわること |
| <input type="radio"/> 教科書を使って学習すること | <input type="radio"/> 椅子に座り、机に向かって学習すること |
| <input type="radio"/> 45分間の授業時間で学習すること | <input type="radio"/> 教師の言葉による説明で学習すること |
| <input type="radio"/> 一斉学習の形態で学習すること | <input type="radio"/> 知識や技能を身に付けなければならないこと |
| <input type="radio"/> 全員が同じ目標に向かって学習すること | <input type="radio"/> 学習の到達度で評価されること |

- (10) 【自由記述設問】(9)について、その他、子どもたちが学習面で戸惑いが大きいと感じたことがありましたらお書きください。

- (11) 【複数選択設問】入学後、1年生の子どもたちが生活の場面で戸惑いを感じるのはどのようなことでしょうか。1学期の子どもたちの様子を振り返って、先生の中から見て「生活面で子どもたちのとまどいが大きいと感じたこと」を以下の項目から選んでお答えください。(複数回答可)
- | | |
|---|--|
| <input type="radio"/> 自分で荷物を持ち、歩いて登下校すること | <input type="radio"/> チャイムや時間の区切りで行動すること |
| <input type="radio"/> 施設や設備が大きいこと | <input type="radio"/> トイレに行く時間や使い方に慣れること |
| <input type="radio"/> 係や当番の仕事をする事 | <input type="radio"/> 自分で持ち物の整理や管理をすること |
| <input type="radio"/> 時間内に給食を食べること | <input type="radio"/> 給食の配膳や後片付けをすること |
| <input type="radio"/> 新しい友達と人間関係をつくること | <input type="radio"/> 上級生とのかかわりが増えること |
| <input type="radio"/> 小学校の教員の言葉がけや接し方に慣れること | |



(12)【自由記述設問】(11)について、その他、子どもたちが生活面で戸惑いが大きいと感じたことがありましたらお書きください。

(13)【複数選択設問】小学校1年生のスタートの時期の教育についてお伺いします。1年生の担任として、4～5月に特に意識して行ったのはどのようなことでしょうか。以下の項目から当てはまるものを選んでお答えください。(複数回答可)

- 自分の思いや考えを自信をもって伝える場としてペアやグループ学習の場を設定すること
- 大事なことを落とさないように聞けるような言葉がけを行うこと
- 言葉や文字に興味をもてるよう、言葉遊びや動作化を取り入れること
- 読み聞かせや朝読書など、子どもたちが本に親しめるような環境作りを行うこと
- 学校の施設や生活に慣れ、楽しく安心して生活できるような活動を取り入れること
- 実感を通して数の仕組みを理解できるよう、具体物の操作や体験活動を取り入れること
- 楽しく歌ったりリズム演奏をしたりすることができるよう、身体表現を取り入れること
- 一人一人の関心や意欲に合わせて教材や環境を準備すること
- 子どもたちの実態に合わせて時間の区切りを柔軟にとらえ、授業を組み立てること
- 生活科を中心として、体験的・合科的な学習活動を組むこと
- 子どもたちの興味・関心が持続するような授業の構成を工夫すること
- 係や当番の仕事など、幼児期の経験を生かした活動を行うこと
- 楽しく食事をしながら好き嫌いなく食べられるよう、給食指導を充実させること
- 子どもたちがいろいろな友達とかかわれるような場を設定すること
- 子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、教師とのかかわりを深めること
- 集団で話を聞いたり活動したりする場を取り入れること
- 通学路の様子を知り、安全な登下校ができるための指導を取り入れること
- 子どもたち一人一人の伸びや努力を認めてほめること
- その他 ()

(14)【自由記述設問】(13)について、小学校生活をスムーズにスタートさせるため、特に有効だったと感じた手だてがありましたら、具体例をお書きください。

御協力ありがとうございました。



幼小接続にかかわる調査（年長児担任対象）

幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との接続（以下幼小接続と表記する）に関する以下の項目について、あなたの考えをお聞かせください。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。

: 空白マーク

: 正しいぬりつぶし

: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

- (1) 【自由記述設問】 所属園所名をお書きください。 〈例〉 ○○幼稚園 ○○保育園 ○○こども園

- (2) 【択一選択設問】 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の接続を見通した指導計画（以下幼小接続カリキュラムと表記する）についてお伺いします。以下の各項目について、あなたの園の実態として当てはまるものをお答えください。（1つにマーク）

幼小接続カリキュラムを作成・実施し、よりよいものになるよう検討している。

幼小接続カリキュラムを作成・実施している。

幼小接続カリキュラムの作成はしていないが、これから作成する予定である。

幼小接続カリキュラムを作成する予定はない。

- (3) 【択一選択設問】 幼小接続カリキュラムを作成していくことは、必要だと思いますか。どちらかを選んでお答えください。

必要である。

必要ではない。

- (4) 【複数選択設問】 (3)で「必要である」と答えた方は、その理由を次の項目から選んでお答えください。（複数回答可）

幼小の連携を深めることができる。

子どもたちが小学校生活をスムーズにスタートすることができる。

小学校での学習にどのようにつながっていくかを意識した指導ができる。

幼小接続期に必要な支援や手だてを明確にできる。

カリキュラム化することで、見通しをもった指導ができる。

カリキュラムに修正・改善を加えることで次年度に引き継いでいける。

その他（ ）

- (5) 【自由記述設問】 (3)で「必要ではない」とお答えになった方は、その理由をお書きください。



(6) 【複数選択設問】 幼児教育において育てたい力はどのようなことでしょうか。次の項目から選んでお答えください。（複数回答可）

- ①経験したことや思ったことを自分なりの言葉で伝えること
- ②先生や友達の話最後まで聞くこと
- ③文字や言葉に対する興味・関心をもつこと
- ④文字や言葉を読むこと
- ⑤文字や言葉を書くこと
- ⑥絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わうこと
- ⑦身近な自然や動植物に親しみをもって接すること
- ⑧自分なりの発想を生かして、自由に描いたり作ったりすること
- ⑨身近なものの性質や仕組みについて気付いたり考えたりすること
- ⑩生活や遊びを通して、必要感をもって数えたり比べたりすること
- ⑪クラスみんなで共通の目的に向かってやり遂げること

(7) 【自由記述設問】 (6) で選んだ項目についてお伺いします。これらの力を育てるために、どのような指導の工夫をしていますか。特に工夫していることについて具体例をお書きください。

〈例〉①について、（～の場面で）（～できるように）～している。

(8) 【複数選択設問】 幼児教育において育てたい力はどのようなことでしょうか。次の項目から選んでお答えください。（複数回答可）

- ①衣服の着脱・食事・排せつなど、自分の身の回りのことを自分ですること
- ②してよいことと悪いこととの区別を考えて行動すること
- ③集団生活の中で、見通しをもって活動に取り組むこと
- ④クラスのみならず気持ちよく過ごすためのきまりを守ろうとすること
- ⑤みんなで使う物を大切に使うこと
- ⑥身近な人にあいさつをすること
- ⑦様々な友達とかかわりながら一緒に遊びを進めていくこと

(9) 【自由記述設問】 (8) で選んだ項目についてお伺いします。これらの力を育てるために、どのような指導の工夫をしていますか。特に工夫していることについて具体例をお書きください。

〈例〉①について、（～の場面で）（～できるように）～している。



(10)【複数選択設問】幼児教育において育てたい力はどのようなことでしょうか。次の項目から選んでお答えください。（複数回答可）

- ①いろいろな友だちとのかかわりを通して、相手の気持ちを大切にして行動すること
- ②生活の流れを見通して生活すること
- ③困難なことにつまずいても、気持ちを切り替えて前向きに取り組もうとすること
- ④いろいろな遊びや活動を最後まで自分の力でやり遂げ、満足感や達成感をもつこと
- ⑤自分で考え、主体的に行動すること
- ⑥周りの人とふれあう中で、自分が役に立つ喜びを感じることに

(11)【自由記述設問】(10)で選んだ項目についてお伺いします。これらの力を育てるために、どのような指導の工夫をしていますか。特に工夫していることについて具体例をお書きください。

〈例〉①について、(～の場面で) (～できるよう)～している。

(12)【複数選択設問】入学後、1年生の子どもたちが学習の場面で戸惑いを感じるのはどのようなことだと思いますか。年長児の子どもたちが入学後、「学校生活に慣れるまでに学習面でもまどいが大きいと思われること」を以下の項目から選んでお答えください。（複数回答可）

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 文字や文を読むこと | <input type="checkbox"/> 文字や文を書くこと |
| <input type="checkbox"/> 自分の思いや考えを皆の前で話すこと | <input type="checkbox"/> 教師や友達の話を聞くこと |
| <input type="checkbox"/> 数を数えたり計算をしたりすること | <input type="checkbox"/> 絵や文字で自分の思いを表現すること |
| <input type="checkbox"/> 少人数で伝え合ったり話し合ったりすること | <input type="checkbox"/> 身近な自然や生き物にかかわること |
| <input type="checkbox"/> 教科書を使って学習すること | <input type="checkbox"/> 椅子に座り、机に向かって学習すること |
| <input type="checkbox"/> 45分間の授業時間で学習すること | <input type="checkbox"/> 教師の言葉による説明で学習すること |
| <input type="checkbox"/> 一斉学習の形態で学習すること | <input type="checkbox"/> 知識や技能を身に付けなければならないこと |
| <input type="checkbox"/> 全員が同じ目標に向かって学習すること | <input type="checkbox"/> 学習の到達度で評価されること |

(13)【自由記述設問】(12)について、その他、子どもたちが学習面で戸惑いが大きいと思われることがありましたらお書きください。

(14)【複数選択設問】入学後、1年生の子どもたちが生活の場面で戸惑いを感じるのはどのようなことだと思いますか。年長児の子どもたちが入学後、「学校生活に慣れるまでに生活面でもまどいが大きいと思われること」を以下の項目から選んでお答えください。（複数回答可）

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 自分で荷物を持ち、歩いて登下校すること | <input type="checkbox"/> チャイムや時間の区切りで行動すること |
| <input type="checkbox"/> 施設や設備が大きいこと | <input type="checkbox"/> トイレに行く時間や使い方に慣れること |
| <input type="checkbox"/> 係や当番の仕事をする事 | <input type="checkbox"/> 自分で持ち物の整理や管理をすること |



- 時間内に給食を食べること
- 給食の配膳や後片付けをすること
- 新しい友達と人間関係をつくること
- 上級生とのかかわりが増えること
- 小学校教員の言葉がけや接し方に慣れること

(15)【自由記述設問】(14)について、その他、子どもたちが生活面で戸惑いが大きいと思われることがありましたらお書きください。

(16)【複数選択設問】小学校1年生のスタートの時期の教育についてお伺いします。幼児教育と学校教育を滑らかにつなげるため、1年生のスタートの時期の教育に有効な手だてはどのようなものだと思いますか。以下の項目から当てはまるものを選んでお答えください。(複数回答可)

- 自分の思いや考えを自信をもって伝える場としてペアやグループ学習の場を設定すること
- 大事なことを落とさないように聞けるような言葉がけを行うこと
- 言葉や文字に興味をもてるよう、言葉遊びや動作化を取り入れること
- 読み聞かせや朝読書など、子どもたちが本に親しめるような環境作りを行うこと
- 学校の施設や生活に慣れ、楽しく安心して生活できるような活動を取り入れること
- 実感を通して数の仕組みを理解できるよう、具体物の操作や体験活動を取り入れること
- 楽しく歌ったりリズム演奏をしたりすることができるよう、身体表現を取り入れること
- 一人一人の関心や意欲に合わせて教材や環境を準備すること
- 子どもたちの実態に合わせて時間の区切りを柔軟にとらえ、授業を組み立てること
- 生活科を中心として、体験的・合科的な学習活動を組むこと
- 子どもたちの興味・関心が持続するような授業の構成を工夫すること
- 係や当番の仕事など、幼児期の経験を生かした活動を行うこと
- 楽しく食事をしながら好き嫌いなく食べられるよう、給食指導を充実させること
- 子どもたちがいろいろな友達とかかわれるような場を設定すること
- 子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、教師とのかかわりを深めること
- 集団で話を聞いたり活動したりする場を取り入れること
- 通学路の様子を知り、安全な登下校ができるための指導を取り入れること
- 子どもたち一人一人の伸びや努力を認めてほめること
- その他

(17)【自由記述設問】(16)について、「その他」とお答えになった方は、上記以外に有効だと思われることをお書きください。

御協力ありがとうございました。

1 幼小接続にかかわる実態調査結果

(1)幼小接続を見通した指導計画・カリキュラムの作成について【択一選択】

調査票: 年長児担任対象(2) 1年生担任対象(2)

項目	小学校		幼稚園		保育所	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
幼小接続カリキュラムを作成・実施し、よりよいものになるよう検討している。	10人	7%	26人	18%	22人	16%
幼小接続カリキュラムを作成・実施している。	8人	6%	20人	13%	23人	17%
幼小接続カリキュラムの作成はしていないが、これから作成する予定である。	25人	19%	40人	29%	24人	18%
幼小接続カリキュラムを作成する予定はない。	90人	67%	57人	40%	57人	42%
無答	2人	1%	0人	0%	10人	7%
合計	135人		143人		136人	

(2)カリキュラム作成に必要な情報について【複数選択可】

調査票: 1年生担任対象(3)

「作成している」…接続カリキュラムを作成する際必要だった情報・役立った情報

「作成していない」…作成する際に必要だと思われる情報

項目	小学校(135人)	
	人数	割合
互いにどのような教育を行っているか(教育の内容)	85人	63%
幼小の教師の教育観の違いや共通点	25人	19%
幼小の教育がどのようにつながっているか	47人	35%
幼小接続期の支援や指導上の手だて	74人	55%
先進校(園)における実践例	35人	26%
接続カリキュラムのモデル	43人	32%
その他	0人	0%

(3) 幼小接続を見通した指導計画・カリキュラムの作成について【択一選択】

調査票: 年長児担任対象(3) 1年生担任対象(5)

項目	小学校		幼稚園		保育所	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
必要である	111人	82%	130人	91%	110人	81%
必要ではない	22人	17%	12人	8%	24人	18%
無答	2人	1%	1人	1%	2人	1%
合計	135人		143人		136人	

(4) 必要であると考え理由【複数選択可】

調査票: 年長児担任対象(4) 1年生担任対象(6)

項目	小学校		幼稚園		保育所	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
幼小の連携を深めることができる。	58人	43%	73人	51%	60人	44%
子どもたちが小学校生活をスムーズにスタートすることができる。	83人	61%	118人	83%	87人	64%
幼児期の経験や学びを生かした指導ができる。	45人	33%	78人	54%	47人	35%
幼小接続期に必要な支援や手だてを明確にできる。	66人	49%	84人	59%	64人	47%
カリキュラム化することで、見通しをもった指導ができる。	42人	31%	56人	40%	47人	35%
カリキュラムに修正・改善を加えることで次年度に引き継いでいける。	19人	14%	23人	15%	24人	18%
その他	6人	4%	3人	2%	6人	5%

〈自由記述より〉

「必要である」と回答したその他の記述

- ・各施設でどのようなことをしているか、力を注いでいるか、それぞれ理解が深まる。
- ・必要だと思うが、作成するのは難しい。資料などあれば作成しやすい。

「必要ではない」と考える理由

1年生担任の回答

- ・連携がうまくいっているため必要性を感じない。今のままで十分である。
- ・幼稚園・保育所とは教育の内容が違う。
- ・複数の園から入学してくるため、作成は難しい。
- ・作成する時間等負担感が大きい。

年長児担任の回答

- ・情報交換や連携をしていくことで十分である。
- ・指導計画の中に既に盛り込まれている。
- ・小学校入学のための幼児教育ではないから。
- ・カリキュラムという枠にはめてしまうと、幼児教育本来の教育ではなくなってしまう。

2 幼小の接続にかかわる調査結果

調査1 幼児教育において育てたい力【複数選択可】

①学びの自立について

調査票：年長児担任対象(6)(7) 1年生担任対象(8)(9)…「幼児教育において育ててほしい力」として回答

	項目	小学校 (135人)		幼稚園 (143人)		保育所 (136人)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
学 び の 自 立 に つ い て	①経験したことや思ったことを自分なりの言葉で伝えること	61人	45%	141人	98%	120人	88%
	②先生や友達の話最後まで聞くこと	114人	84%	123人	85%	122人	90%
	③文字や言葉に対する興味・関心をもつこと	29人	21%	103人	72%	86人	63%
	④文字や言葉を読むこと	5人	4%	29人	19%	34人	25%
	⑤文字や言葉を書くこと	※1	※1	23人	15%	21人	15%
	⑥絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わうこと	54人	40%	129人	90%	117人	86%
	⑦身近な自然や動植物に親しみをもって接すること	61人	45%	116人	81%	102	75%
	⑧自分なりの発想を生かして、自由に描いたり作ったりすること	45人	33%	109人	76%	111人	82%
	⑨身近なものの性質や仕組みについて気付いたり考えたりすること	2人	1%	74人	51%	51人	38%
	⑩生活や遊びを通して、必要感をもって数えたり比べたりすること	18人	13%	79人	56%	63人	47%
	⑪クラスみんなで共通の目的に向かってやり遂げること	—	—	127人	88%	110人	80%

※1 1年生担任には「簡単な文字や言葉を読んだり書いたりすること」の項目で回答を得ている。

〈自由記述(幼児教育において学びの自立をはぐくむためにしている指導の工夫)〉

年長児担任の回答

①②について

- ・休み中の出来事、行事での体験、それを通して思ったことなどを伝えたり、友達の思いや考えに共感できるような環境作り
- ・話す喜び、聞いてもらえる安心感を味わえるような雰囲気作り
- ・話し手、聞き手の両方の立場に立つことで、どのように聞いてもらえるとうれしいか考えながら、相手の話が聞けるようにすること
- ・友達とかかわって遊ぶ中で、自分の思いや考えが伝えられるような援助
- ・話を聞くことができるよう、一人一人と目を合わせたり、声の強弱を使い分けたりすること

③④⑤⑥について

- ・絵本や紙芝居の読み聞かせ、本の貸し出しなどを行い、絵本に触れる機会を増やすこと
- ・しりとり、カルタ、ごっこ遊びなど、遊びを通して文字や言葉に興味をもてるようにすること
- ・日常生活の中で自然に文字に触れるような環境作り（壁面飾りや名前の表示等）
- ・文字の指導（ワークや外部講師の活用等）

⑦について

- ・花や野菜の栽培、生き物の飼育などの体験（種まきから収穫までの喜びを味わう・食育につなげる）
- ・散歩や園外保育等、自然とふれあう機会を設けること
- ・自然や動植物とふれあう中で不思議に思ったこと、気付いたことを調べられるよう絵本や図鑑を置くこと

⑧⑨について

- ・いつでも絵を描いたり工作したりすることができるような材料の準備（折り紙や段ボール等）
- ・子どもたちのアイディア、発見したこと、気付いたことなどを受け止め、認めること

⑩について

- ・数を意識した言葉がけ（「折り紙を○枚持ってきて」等）
- ・当番活動、ゲーム、製作等の中で数を意識した活動を行うこと

⑪について

- ・行事や毎日の活動を通して、クラスみんなで頑張ることを学ぶこと（運動会、発表会、クリスマス会、マーチング、和太鼓、動物の世話等）
- ・日常の活動の中に集団での遊びを取り入れること
- ・結果だけでなく、経過を大事にし、子どもたちの興味を持続し達成感を味わえる言葉掛けや環境構成
- ・遊びの中で、困ったことやうまくいかないことがあったら、問題を解決できるようみんなで話し合う場を作ること

②生活上の自立について【複数選択可】

調査票：年長児担任対象(8)(9) 1年生担任対象(8)(9)…「幼児教育において育ててほしい力」として回答

	項目	小学校 (135人)		幼稚園 (143人)		保育所 (136人)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
生活上の自立について	①衣服の着脱・食事・排せつなど、自分の身の回りのことを自分ですること	123人	91%	121人	85%	117人	87%
	②してよいことと悪いこととの区別を考えて行動すること	104人	77%	133人	94%	118人	88%
	③集団生活の中で、見通しをもって活動に取り組むこと	16人	12%	87人	61%	87人	65%
	④クラスのみならず気持ちよく過ごすためのきまりを守ろうとすること	100人	74%	124人	87%	104人	77%
	⑤みんなで使う物を大切に使うこと	77人	57%	107人	75%	102人	76%
	⑥身近な人にあいさつをすること	75人	56%	119人	83%	108人	80%
	⑦様々な友達とかかわりながら一緒に遊びを進めていくこと	102人	76%	120人	84%	101人	74%

〈自由記述(幼児教育において生活上の自立をはぐくむために行っている指導の工夫)〉

年長児担任の回答

①について

- ・ 3歳児（保育所では0歳児）から発達段階を踏まえて自分のことは自分でできるように援助する。
- ・ 個々の発達に合わせて、十分時間をとり援助を行うこと
- ・ 自分でしようとする気持ちを大切に、「見守る保育」を心掛ける。
- ・ 保護者との連携

②について

- ・ 集団での遊びを通して、きまりを守って楽しく遊べるようにする。
- ・ トラブルがあった場合は、子ども同士で解決したりクラスみんなで考える場を作ったりする。
(どうしてこうなったのか、どうすべきだったか、相手はどんな気持ちになるかなど)

③について

- ・ 1日の流れを意識して生活できるよう、あらかじめ知らせておくこと
- ・ 年長児になると、生活の流れがよくわかっているので、自分で考えて進められるよう見守る。
- ・ 当番やグループ活動など、自分で気付いて行えるようにする。

④について

- ・ 友達や身近な人とふれあえるような活動を取り入れる。
- ・ きまりや約束を守ることの大切さを、場面をとらえて伝えていく。

⑤について

- ・ 掃除、片付け、整理整頓など、物を大切にすることを育てる指導をしている。
- ・ 自分が使ったトイレのサンダルをそろえるなど、次の人が気持ちよく使えるような指導を行う。

⑥について

- ・ 身近な大人（教師・保育士）自ら気持ちのよいあいさつを心掛ける。
- ・ あいさつをする気持ちよさ、してもらったときのうれしい気持ちを伝えるようにする。
- ・ 来客や地域の人へのあいさつの機会を作る。

⑦について

- ・ グループや集団、クラス全体での遊びを取り入れる。
- ・ 異年齢交流の場を作る。
(縦割り保育で、年長児が下学年の見本となる場)
- ・ いろいろな友達とふれあいながら遊べる活動を取り入れる。

③精神的な自立について【複数選択可】

調査票：年長児担任対象(10)(11) 1年生担任対象(8)(9)…「幼児教育において育ててほしい力」として回答

	項目	小学校 (135人)		幼稚園 (143人)		保育所 (136人)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
精神的な自立について	①いろいろな友達とのかかわりを通して、相手の気持ちを大切に行動すること	102人	76%	120人	84%	115人	85%
	②生活の流れを見通して生活すること	11人	8%	68人	48%	81人	60%
	③困難なことにつまずいても、気持ちを切り替えて前向きに取り組もうとすること	48人	36%	102人	70%	91人	67%
	④いろいろな遊びや活動を最後まで自分の力でやり遂げ、満足感や達成感をもつこと	50人	37%	127人	88%	113人	82%
	⑤自分で考え、主体的に行動すること	13人	10%	101人	70%	82人	60%
	⑥周りの人とふれあう中で、自分が役に立つ喜びを感じる	26人	19%	70人	49%	63人	46%

〈自由記述(幼児教育において精神的な自立をはぐくむために行っている指導の工夫)〉

年長児担任の回答

①について

- ・友達とのトラブルがあったときは、自分の気持ちを伝え、相手の気持ちも受け止められるよう援助する。
- ・運動会や発表会などの行事を通して、協力して取り組める場を設定する。

②について

- ・カレンダーや時計(模型)を活用して、1日の流れや活動の終了時刻を意識して生活できるようにする。
- ・昼食の準備やおやつ前の片付けなど、毎日決まっている生活時間について知らせ、自分で考えて区切りが付けられるようにする。
- ・当番や身の回りのことなど毎日行うことは、繰り返し行うことで習慣化する。

③について

- ・頑張ったこと、やり遂げたことを十分に誉め、認めることで、次への意欲や自信がもてるようにする。
- ・遊びや生活の中で、多少難しいことや友達との葛藤体験がもてるような環境を設定し、繰り返し経験を積み重ねて乗り越えられるようにする。

④について

- ・運動会や発表会などの行事を通して、最後までやり遂げる達成感を味わえるようにする。
- ・できないこともあきらめずに挑戦できるよう励ましていく。小さな進歩も認め、自信につなげていく。
- ・結果だけでなく過程も誉めるようにする。できたときには一緒に喜び、気持ちを共有している。

⑤について

- ・子どもたちが自分で考え行動できるよう、自分で考える時間をとり、教師がすぐに答えを出さず、子どもの考えを引き出すようにする。
- ・自分で考えて行動したときには、失敗であっても「考えて行動したこと」を誉め、認める。

⑥について

- ・当番やお手伝いを通して、自分の役割を進んで行い、責任をもったり、任されることに自信をもったりする経験ができるようにする。
- ・異年齢のかかわりの中で、小さい子の面倒を見ながら役に立ったり、頼りにされてうれしい体験をしたりして役に立つ喜びが感じられるようにする。
- ・当番の仕事をした後にクラスみんな「ありがとう」を伝える。

調査2 担任の目から見た戸惑いについて【複数選択可】

調査票：年長児担任対象(12)～(15) 1年生担任対象(9)～(12)

	項目	小学校 (135人)		幼稚園 (143人)		保育所 (136人)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
学習の内容	文字や文を読むこと	28人	21%	22人	16%	21人	15%
	文字や文を書くこと	40人	30%	45人	31%	42人	31%
	自分の思いや考えを皆の前で話すこと	74人	55%	51人	36%	51人	38%
	教師や友達の話聞くこと	53人	39%	13人	9%	17人	13%
	数を数えたり計算をしたりすること	11人	8%	25人	17%	21人	15%
	絵や文字で自分の思いを表現すること	28人	21%	22人	16%	14人	11%
	少人数で伝え合ったり話し合ったりすること	42人	31%	14人	10%	11人	8%
	身近な自然や生き物にかかわること	4人	3%	7人	5%	2人	1%
方法・形態	教科書を使って学習すること	8人	6%	53人	36%	24人	18%
	椅子に座り、机に向かって学習すること	42人	31%	44人	31%	58人	42%
	45分間の授業時間で学習すること	66人	49%	97人	67%	91人	67%
	教師の言葉による説明で学習すること	50人	37%	59人	40%	46人	33%
	一斉学習の形態で学習すること	38人	28%	47人	32%	30人	22%
	知識や技能を身に付けなければならないこと	9人	7%	19人	13%	14人	10%
	全員が同じ目標に向かって学習すること	21人	16%	16人	11%	9人	7%
人とのかわり	学習の到達度で評価されること	4人	3%	50人	35%	36人	26%
	小学校の教員の言葉がけや接し方に慣れること	14人	10%	84人	58%	40人	29%
	新しい友達と人間関係をつくること	30人	22%	54人	38%	43人	32%
	上級生とのかわりが増えること	6人	4%	32人	21%	14人	10%
生活	施設や設備が大きいこと	9人	7%	40人	26%	26人	19%
	係や当番の仕事をする	10人	7%	1人	1%	2人	1%
	自分で荷物を持ち、歩いて登校すること	49人	36%	68人	47%	62人	46%
	自分で持ち物の整理や管理をすること	70人	52%	46人	32%	35人	26%
	チャイムや時間の区切りで行動すること	83人	61%	73人	50%	64人	47%
	トイレに行く時間や使い方に慣れること	58人	43%	54人	37%	54人	40%
	時間内に給食を食べること	115人	85%	68人	49%	50人	38%
	給食の配膳や後片付けをすること	25人	19%	8人	5%	12人	8%

〈自由記述(その他の戸惑いについて)〉

1年生担任の回答

- ・ひらがなのはねやはらい、書き順など、正しい文字を書くこと
- ・文字は書けるが、文を書くことに戸惑いがある
- ・鉄棒、プール、なわとびなどの経験や、はさみやのりなどの道具を使うことの個人差
- ・やりたくない学習課題があってもがんばってやらなければいけないこと
- ・毎時間、決められたメニューで学習すること

年長児担任の回答

- ・幼稚園と小学校の規模の違い
- ・いろいろな幼稚園・保育園から集まることによる新たな人間関係作り
- ・最年長から、最年少の存在として生活していくこと
- ・給食準備、当番活動など、今まで行ってきたこともやってもらうが増えること
- ・多人数の中で学習活動を進めていかななくてはならないこと
- ・意欲より結果を求められること(字を正しく書かなくてはならないことなど)
- ・手を挙げて発言すること
- ・幼稚園の先生と小学校の先生の言葉遣いの違い

調査3 小学校スタートの時期に有効な手だて【複数選択可】

調査票:年長児担任対象(16)(17) 1年生担任対象(13)(14)

	項目	小学校 (135人)		幼稚園 (143人)		保育所 (136人)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
学習面 における 手だて	自分の思いや考えを自信をもって伝える場としてペアやグループ学習の場を設定すること	13人	10%	33人	23%	35人	26%
	大事なことを落とさないように聞けるような言葉掛けを行うこと	98人	73%	82人	57%	75人	55%
	言葉や文字に興味をもてるよう、言葉遊びや動作化を取り入れること	63人	47%	36人	25%	46人	34%
	読み聞かせや朝読書など、子どもたちが本に親しめるような環境作りを行うこと	80人	59%	43人	30%	42人	31%
	学校の施設や生活に慣れ、楽しく安心して生活できるような活動を取り入れること	97人	72%	98人	69%	81人	60%
	実感を通して数の仕組みを理解できるよう、具体物の操作や体験活動を取り入れること	78人	58%	40人	28%	35人	26%
	楽しく歌ったりリズム演奏をしたりすることができるよう、身体表現を取り入れること	59人	44%	29人	20%	40人	29%
	一人一人の関心や意欲に合わせて教材や環境を準備すること	16人	12%	54人	38%	31人	23%
	子どもたちの実態に合わせて時間の区切りを柔軟にとらえ、授業を組み立てること	72人	53%	74人	52%	55人	40%
	生活科を中心として、体験的・合科的な学習活動を組むこと	32人	24%	54人	38%	27人	20%
	子どもたちの興味・関心が持続するような授業の構成を工夫すること	100人	74%	103人	72%	83人	61%
生活面 における 手だて	係や当番の仕事など、幼児期の経験を生かした活動を行うこと	16人	12%	70人	49%	44人	32%
	楽しく食事をしながら好き嫌いなく食べられるよう、給食指導を充実させること	47人	35%	37人	26%	50人	37%
	子どもたちがいろいろな友達とかかわれるような場を設定すること	73人	54%	78人	55%	57人	42%
	子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、教師とのかかわりを深めること	78人	58%	119人	83%	94人	69%
	集団で話を聞いたり活動したりする場を取り入れること	41人	30%	27人	19%	30人	22%
	通学路の様子を知り、安全な登下校ができるための指導を取り入れること	84人	62%	67人	47%	45人	33%
	子どもたち一人一人の伸びや努力を認めてほめること	79人	59%	128人	90%	110人	81%
	その他	1人	1%	17人	12%	6人	4%

〈自由記述(その他の有効な手だて)〉

1年生担任の回答

- ・活動の内容を前もって知らせること
- ・校時表や当番の仕事など、視覚化して掲示するなどの工夫
- ・45分を三つに区切って内容を変化させ、意欲が持続できるようにすること
- ・入学から3週間、生活科を軸としたスタートカリキュラムを取り入れること
- ・作業や課題の終了時刻を時計の模型で示し、時間を意識できるようにすること
- ・保護者の不安を解消できるような手だて(お便り、連絡帳、電話等)

年長児担任の回答

- ・言葉による説明や指導だけでなく、絵カードや掲示物を有効に活用し、視覚からも理解できるようにすること
- ・(幼児教育で行っているように)興味を抱けるよう導入や環境の工夫をし、臨機応変な環境の再構成により活動を深めること
- ・担任と子どもたちとの心の距離を近づけるような活動
- ・子どもたちのよいところ、得意なところを見逃さず、とりあげていくこと
- ・幼小で連携してのスタートカリキュラムの作成
- ・授業参観や保育参観を行い、相互理解を深めること